

海老名市教育委員会

(平成30年 8月 定例会議事日程)

日時 平成30年 8月24日(金)

午後14時00分

場所 えびなこどもセンター 301会議室

教育長報告

日程第 1 報告第 13号 海老名市教育委員会関係職員の人事異動について

日程第 2 報告第 14号 平成30年度教育委員会非常勤特別職の委嘱について

日程第 3 報告第 15号 海老名市学校施設再整備計画の最終答申について

日程第 4 議案第 19号 第2期えびなっ子しあわせプランについて

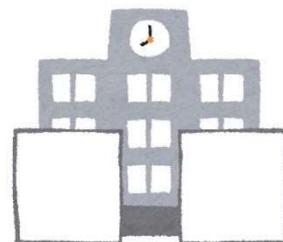
海老名市教育委員会

平成30年 8月定例会

◇教育長報告

1 主な事業報告

- 7月27日(金) 教育委員会7月定例会
7月臨時議会
臨時校長会
台風12号情報連絡会
- 28日(土) 台風12号情報連絡会
ひきこもり講演会
ロボットコンテスト
- 29日(日) 第1回総合教育会議(台風のため延期)
福島・海老名交流キャンプ(宿泊)
- 30日(月) タブレット研修講座(タブレットによる挨拶)
- 31日(火) えびな地域講座(タブレットによる挨拶)
福島・海老名交流キャンプ(見送り)
矢じりづくり
人権教育研修会
- 8月 1日(水) 辞令交付
週部会
勾玉づくり
県央地区小学校教育課程研究会
- 2日(木) 県央地区中学校教育課程研究会
- 3日(金) 和座海綾管理職組合代表者来館
学校施設再整備計画検討委員会答申
- 4日(土) 海老名市戦没者追悼式
- 6日(月) 管理職研修会
- 7日(火) 児童生徒指導理解講座
教育方法改善研修Ⅰ・Ⅲ
台風13号情報連絡会
通学路ブロック塀調査打合せ



- 8日(水) 台風13号情報連絡会
週部会
- 9日(木) 通学路安全対策委員会
- 10日(金) 教職員人事検討会
MOA美術館視察
- 16日(木) 太田市交流事業打合せ
最高経営会議
- 17日(金) 支援教育研修会Ⅱ
社会を明るくする運動講演会
県外研修派遣教職員顔合わせ会
- 20日(月) 教育課題研究会
- 21日(火) 海老名中学校運動着等参入業者コンペ
初任者宿泊研修会
- 22日(水) 週部会
外国語教育研修会
関東地区高等学校和太鼓選手権大会
- 23日(木) 台風20号情報連絡会
ひびきあう教育研究発表大会
- 24日(金) 教育委員会8月定例会
不登校支援「ぼちぼち」見学



2 中学生使用運動着（ジャージ上下・ハーフパンツ）のコンペ実施
ついて

学校教育活動に係る保護者負担経費については、市として、独自に小・中学校第1学年の教材費公費負担、野外教育活動費の小学校無償化・中学校費用補助などに取り組んできました。

しかしながら、「義務教育は、これを無償とする。」と法に定められているにもかかわらず、「学校に通わせるにはけっこうお金がかかる。」という保護者の声をよく聞きます。特に、小中学校の入学時にかかる経費には、大きな負担感を感じているとのこと。

そこで、昨年度から、保護者、教職員、教育委員会事務局職員による「保護者負担経費検討委員会」を設置して、「学校教育に係る保護者負担経費の在り方」について、協議・検討を進めているところです。

ここでの協議・検討により、昨年度、彫刻刀・柔道着の公費での購入を行ったところです。

今年度は、海老名中学校を試行校として、中学生使用運動着のコンペに取り組んでいます。

コンペ方式の公募により、13業者が応募し、今週の火・木曜日の2日間にわたり、業者のプレゼンテーションが行われ、海老名中学校の保護者・教職員の代表者による審査が行われました。

私としては、プレゼンのために、業者が子どもセンターに運動着の見本を持ち込む様子を目にして、これで、公正な選択ができる、説明責任が果たせると思ったところです。

今後、海老名中学校の試行結果をもとに、問題点を整理・解決し、他の5校への導入を進めていきたいと考えています。

なお、今月30日に8回目、最終の保護者負担経費検討委員会が開かれ、制服、運動着、修学旅行、教材などについての検討結果が報告書としてまとめられる予定です。

委員のみなさんには、9月定例会において、報告書をもとに、今後の「海老名市保護者負担経費の在り方」について方針を審議していただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。



以上でございます。

報告第13号

海老名市教育委員会関係職員の人事異動について

海老名市教育委員会関係職員の人事異動について、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和49年教委規則第2号）第3条第1項の規定により臨時に代理し発令したので、同条第2項の規定により報告する。

平成30年8月24日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

報告理由

平成30年8月1日付で人事異動を発令したため

教育委員会関係職員人事異動内訳

平成30年8月1日付け

次長・参事級・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

計 1名

平成30年8月1日付け

氏名	新所属	旧所属	備考
【次長・参事級】			
いとう おきむ 伊藤 修	財務部次長（併）教育部専任参事 （財務担当）	財務部次長	兼務発令

報告第14号

平成30年度教育委員会非常勤特別職の委嘱について

平成30年度教育委員会非常勤特別職の委嘱について、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和49年教委規則第2号）第3条第1項の規定により臨時に代理し発令したので、同条第2項の規定により報告する。

平成30年8月24日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

報告理由

新たに非常勤特別職を委嘱したため

非常勤特別職(文化財保存整備委員)の委嘱について

1 文化財保存整備委員について

根拠：海老名市文化財保存整備委員会条例

文化財の保存整備と活用に関する事業の基本方針及び環境整備計画その他必要な事項の調査審議

2 委嘱期間について

平成30年8月1日から平成32年7月31日まで

3 提案理由

新規委嘱

4 委嘱者

氏名	委嘱等内容	備考
アオキ ヒロシ 青木 敬	新規	國學院大學文学部准教授（考古学）
カウ ヒロミ 加藤 仁美	新規	東海大学工学部教授（都市計画・景観）
カノ ヨウコ 鹿野 陽子	新規	日本工学院八王子専門学校講師（造園）
シミズ ヒロシ 清水 擴	新規	東京工芸大学名誉教授 海老名市文化財保護委員（建築）
ナガサワ カヤ 長澤 可也	新規	湘南工科大学工学部教授 （CG・マルチメディアコンテンツ）
ハフタ ヨシユキ 土生田 純之	新規	専修大学文学部教授 海老名市文化財保護委員（考古学）

報告第15号

海老名市学校施設再整備計画の最終答申について

海老名市学校施設再整備計画の最終答申について、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和49年教委規則第2号）第4条の規定により報告する。

平成30年8月24日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

報告理由

海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会から海老名市学校施設再整備計画の最終答申がなされ、その内容を報告したいため

海老名市学校施設再整備計画の最終答申について

1 目 的

「海老名市公共施設再編（適正化）計画」の分野別計画として、老朽化の進む校舎等の長寿命化とともに、少子化や将来の学校施設のあり方に対応した施設の再編など具体的な計画を示す「海老名市学校施設再整備計画」について、海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会に対し諮問を行い、平成30年8月3日付で同策定検討委員会より、別添のとおり答申を受けました。

この答申を踏まえ、海老名市学校施設再整備計画を策定するうえで、広く市民の意見を聴くことを目的として、次のとおりパブリックコメントを実施します。

2 実施内容

(1) 実施期間

平成30年9月6日（木）～9月25日（火）

(2) 資料の閲覧方法

教育総務課窓口、市ホームページ、情報公開コーナー、各コミュニティセンター及び文化センター（国分寺台は改修のため除く）に配架

(3) 意見の提出方法

任意様式により、郵送、ファックス、持参又は市ホームページの「お問い合わせフォーム」から提出

3 周知方法

市ホームページ及び9/15号広報えびな

4 今後のスケジュール

- | | |
|-------|----------------------|
| 8月24日 | 8月教育委員会定例会（パブコメ実施） |
| 8月30日 | 小中学校長連絡会にて報告 |
| 9月6日 | パブリックコメント実施（9月25日まで） |
| 9月8日 | 総合教育会議にて協議・調整 |
| 9月21日 | 9月教育委員会定例会（計画審議） |
| 9月28日 | 最高経営会議にて報告 |

議案第19号

第2期えびなっ子しあわせプランについて

別紙のとおり、第2期えびなっ子しあわせプランについて、議決を求める。

平成30年8月24日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤文康

提案理由

第2期えびなっ子しあわせプランを決定したいため

第 2 期えびなっ子しあわせプランについて

○経過として

これまで、平成 27 年度から 3 年間、海老名市の 21 世紀の教育理念である「ひびきあう教育」の具体計画として、「えびなっ子しあわせプラン」に取り組んできました。

本プランは、海老名の子どもたちが、今と将来にわたってしあわせに生活することを願い、教育のねらいである「自己実現を図り、社会の一員としてよりよく生きる力」を確実に身につけるための教育計画です。

具体的には、「学力」「集団力」「健康安全力」を身につけるための手引きや学習計画の作成と活用、また、新たな学校体制づくりとして、教育課程の工夫や小中一貫教育、コミュニティ・スクールの導入に取り組んできました。

○設定にあたって

平成 30 年度からの新たな 3 年間の教育計画を設定するにあたっては、基本的には、これまでの 3 年間の取組を継続し、具体的な取組として、次の 3 点について重点的に取り組むこととし、「第 2 期えびなっ子しあわせプラン」を設定しました。

①授業改善

②新たな教育課程の編成

③小中一貫教育 コミュニティ・スクールの推進

※詳細については、別紙のとおりです。

○取組にあたって

十分な共通理解のもと、教育委員会と学校が中心となって、委員会等を設置して取り組みます。また、取組について、保護者や地域の方々に説明・周知し、意見を聞くことにより、家庭・地域・学校・行政が連携して取組を進めていきます。

そのために、教育関係者のみならず多くの市民に向けて、本プランにかかわる情報発信を積極的に行っていきます。

第2期えびなっ子しあわせプラン

第1期(平成27～29年度)から継続して、えびなっ子の今と将来のしあわせのために、義務教育9年間で確実に「学力」「集団力」「健康安全力」を身につけることをめざすとともに、これからの学校のあり方について研究を進め、学校教育のさらなる充実を図ります。

そのために、「第2期えびなっ子しあわせプラン」として、次の3つを重点に、平成30～32年度の3カ年計画で海老名市の学校教育を推進します。

授業改善

えびなっ子の「学力」「集団力」「健康安全力」の向上をめざし、よりよい授業を実践するために、海老名市の教職員全員で、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善に取り組みます。

新たな教育課程の編成

校長のリーダーシップのもと、子どもの実態と地域の特性をふまえ、学校全体で話し合っって教育課程を編成し、それを保護者や地域に説明して、共通理解のもと学校運営を進めます。

小中一貫教育 コミュニティ・スクールの推進

新たな学校体制づくりとして導入した小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実を図り、えびなっ子の成長を保護者、地域の方々、教職員がともに支える学校づくりに取り組みます。

海老名市学校施設再整備計画について

最終答申

平成 30 年 8 月 3 日

海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会

海老名市学校施設再整備計画 答申

【答申書】

1. はじめに	1
2. 答申	2
3. むすびに	9

【資料編】

第1章 計画の背景・目的等

1. 計画の位置づけ	10
2. 基本的な考え方	10
3. 計画期間	11
4. 対象施設	11
5. その他（見直しの時期）	11

第2章 学校施設を取り巻く現状と課題

1. 人口動態と将来人口の見通し	
(1) 近年の人口動態	12
(2) 地域別将来推計	13
2. 財政状況	
(1) 財政規模	14
(2) 歳出の推移	14
3. 学校施設の概要	
(1) 配置状況	15
(2) 学校施設一覧	16
(3) 小中学校の変遷	17
4. 課題	
(1) 人口減少	18
(2) 財政見通し	18
(3) 施設の老朽化	18

第3章 児童生徒数・学級数の将来予測	
1. 市立小中学校の児童生徒数の推移と将来予測	19
(1) 小学校の生徒数	19
(2) 中学校の児童数	21
2. 学級数の変化	22

第4章 学校施設の老朽化状況の把握	
1. 学校施設の老朽化状況の把握フロー	
(1) 建物基本情報（基礎情報）	26
(2) 構造躯体の健全性	28
(3) 躯体以外の劣化状況評価	30
2. 学校施設建物情報一覧	

第5章 今後の施設整備・保全の考え方	
1. これまでの施設整備・保全方法	35
2. 今後の施設整備と保全方法	
(1) 改築中心から長寿命化への転換	35
(2) 長寿命化と大規模改修の考え方	35
(3) 改修等の優先順位	37

第6章 老朽化・劣化状況を踏まえた整備計画	
1. 7年計画	38
2. 10年以上計画	39

先進的な取組事例の参考掲載	44
---------------	----

はじめに

わが国は、急速な少子高齢化の進展により、これまでに経験をしたことのない、人口減少社会に入りました。このことは、今後の経済や労働人口、社会保障など社会全体に大きな影響を与えることが想定されます。

この少子高齢化は、海老名市においても全国とほぼ同様に進展しており、本市の児童生徒数は、平成15年度から平成25年度までは微増傾向であったものの、昭和60年度をピーク（15,866人）に、平成30年度の児童生徒数はピーク時の66%（10,538人）と約5,300人減少し、学校の「小規模校化」が進んでいます。

一方、海老名駅西口の区画整理事業や駅間開発等により、利便性の増した海老名駅周辺地域においては、今後しばらくは、急激な児童生徒数の増加も予測されています。

このように海老名市では、学校の小規模校化と大規模校化が同時進行することにより、規模のアンバランスが拡大し、教育効果への影響も危惧されます。

さらに、市内の多くの学校校舎等が高度経済成長期に整備されたことから、築30年を超える建物が86%を占めるなど、老朽化が進行しており、その対策も喫緊の課題となっています。

このような課題を解決し、小学校及び中学校のより良い環境と効果的な学校教育の実現に資するべく、海老名市学校施設再整備計画策定検討委員会は、平成29年7月6日に海老名市教育委員会より「老朽化が進む校舎の長寿命化とともに、少子化や学校施設のあり方に対応した施設の再編を考慮した具体的な再整備計画について」の諮問を受けました。

検討委員会では、「学校施設及び児童生徒数の現状」、「再整備の先進事例」、「新たな学校施設の姿」、「将来の学校施設の規模や施設の再配置」、「多機能化・複合化」等、さまざまな観点から慎重に審議を重ねました。

その結果、中間答申では、「児童生徒数の現状と将来推計」、「学校施設の老朽化の状況」、「今後の施設整備・保全」等を考慮し、「学校施設の改修計画」2案を提案いたしました。

本最終答申では、中間答申を踏まえたうえで、「海老名市学校施設再整備計画」策定の基本的な考え方である「持続可能」で「夢」のある計画に加え、海老名市における今後の「学校施設再整備方針」を答申いたします。

海老名市教育委員会におかれましては、中間答申及び最終答申の趣旨と内容を十分にご検討いただき、より良い教育環境の整備と学校教育充実のため、速やかに実現されることを期待いたします。

答 申

I. 持続可能な計画に向けて

少子化・核家族化が進む現代社会において、小中学校が、人間関係や集団のルール、自己抑制の力などの様々な能力を身につける唯一の場といっても過言ではない。子どもたちの“生きる力”を育てるためには、学区再編などによって学校規模の適正化を図りながら、子どもたちの今と将来のしあわせのために、「学力」「集団力」「健康安全力」を確実に身につけることができる環境を提供することは非常に重要なことである。

一方で、市の財政状況が厳しいものであることも踏まえ、行政経営を持続可能とするため、次の5つの点について答申する。

1. 児童生徒数の増加校と減少校への対応

海老名市は、増加校と減少校が混在しており、学校規模の適正化を図るべく、増加校は、ピーク時を見据えた児童生徒数を考慮し、学区の再編（選択学区の導入を含む）や増築等の対応とし、減少校は減築や長期的に複数校での面的な再編等（統廃合等）により対応する。

また、学区再編や学校規模の適正化については、5年後の予測が、小学校は児童数が概ね300人を、中学校は12クラスを下回る場合、再編エリア^{別紙}を踏まえ検討を始めることとする。

【小中学校再編エリア検討の配慮事項】

- ・地域コミュニティ（自治会）に配慮
- ・小学校区は、地域特性（歴史など）に、中学校区は小学校区との整合性に配慮
- ・通学時間と通学距離に配慮（中学校は最低限の配慮）
- ・学校規模の標準（12～18クラス）に配慮
- ・地形（鉄道、道路など）に配慮
- ・他の公共施設配置を考慮
- ・児童生徒数の将来推計を考慮
- ・小学校は、開発等による児童数の増加とその後の減少を考慮
- ・開発等、市のまちづくりや防災対策等の進捗状況を考慮

2. 地域コミュニティの拠点施設に向けた、周辺公共施設との複合化・多機能化

学校は地域コミュニティの拠点施設として有効活用していくことも求められていることから、校舎の改築や長寿命化改修等の更新時には、近接するコミュニティセンターや文化センター等の集会施設や保育所、高齢者福祉施設等との複合化・多機能化を検討する。

さらに、図書館や体育施設が近接している学校においては、既存施設との連携や共用化等柔軟な対応を検討する。

3. 地域連携による新しい運営のあり方

海老名市では、家庭・地域・学校が力を合わせて学校づくりを行うため、平成 30 年度より、市内全校で学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を導入している。

これを踏まえ、今後は、新しい運営のあり方として、時間外活用等の管理を地域の団体等へ任せることで活用の弾力化や拡大を図るなど、学校が小・中学生の学び場としてだけでなく、その地域に住む乳幼児から高齢者まで、全ての世代が集い学ぶことができる開かれた場になることを目指す。

4. 新しい学習形態への対応

海老名市の教育大綱で掲げる「子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実」「えびなっ子しあわせプラン」「安全安心な環境と新たな学校施設への取組」の実現に向けて、次の取り組みを進めていくこととする。

○重点整備

- ・ 単なる老朽化対策ではなく、今後の児童生徒数の推移、施設の維持管理経費に関する財政的な制約などを勘案したうえで、LED化や木質化、ICT化等の重点整備を行い、きれいで居心地のよい教育環境の向上を図る。

○施設一体型小中一貫校

- ・ 施設分離型の小中一貫教育を発展させ、「施設一体型小中一貫校」の設置を検討する。

○義務教育学校

- ・ 小学校区、中学校区が一致しているエリアでは、将来的に「義務教育学校」への移行についても検討する。

○インクルーシブ教育への対応

- ・ 特別な支援を必要とする児童生徒が、安心して充実した学校生活を送れるよう支援体制の整備、充実を図る。また、スロープによる段差解消、手すりの設置、みんなのトイレ設置など、ユニバーサルデザイン化を徹底する。

5. 財政を考慮した持続可能な教育環境の維持・向上

学校施設の整備にあたっては、市財政^{*}を考慮するとともに、効率的に学習環境の維持向上を図るため、施設の長寿命化や児童生徒数の推移及び施設の劣化状況等に応じた改修内容を設定し、優先順位をつけて次の基本的方針のとおり実施していくこととする。

- ・ 建築後 20～25 年で原状回復を行う大規模改造を実施、建築後 40～45 年で機能向上を目的とした長寿命化改修を実施し、さらに建築後 60～65 年で再び大規模改造を行い、概ね 80 年程度で改築とする。

なお、学校施設更新は、次の基本的考え方にに基づき実施する。

- ・ 築 45 年以上の建物は 65 年で改築。
- ・ 築 45 年未満の建物は 80 年で改築。
- ・ 特に屋上、外壁の劣化が進んだ学校を優先。

^{*}海老名市公共施設再編（適正化）計画に示される投資限度額

II. 夢のある計画に向けて

子どもたちの生きる力は学校だけでなく多様な人々との関わり、さまざまな経験を重ねていく中で育まれるものであり、地域社会とのつながりや信頼できる大人たちとの関わりは大変重要である。幼児から高齢者まですべての世代が集う「みんなの学校」で、地域や学校と関わり合いを持ちながら成長していくことが、今と未来の子どもたちが夢を持って人生を歩んでいくために必要である。この考え方を基本に、次の7つの点について答申する。

1. 魅力のある学校に向けた取り組み

地域の環境や資源を生かした学習活動や子どもの特質や課題に応じた選択教科の設定など、さまざまな取り組みにより、学力向上や文化、スポーツ活動の充実を図り、特色ある学校運営を進めることで、魅力ある学校を目指す。

2. 英語教育・ICT教育の充実

グローバル化社会の進展の中、国際共通語である英語力の向上は極めて重要である。今後の英語教育においては、文法や語彙力だけでなく、コミュニケーション能力を身に付けることが求められることから、それに対応できる人材や教材の充実等を図っていく。また、急速に発展しているICT活用においては、スキルやモラルの向上を含めたICT教育が必要であり、タブレットPC、大型提示装置、無線LAN、デジタル教科書等の整備に加え、障がいのある子どもたちには、状態や特性を踏まえた教材等を活用した指導を充実させるなど、未来型授業の展開を図っていく。

3. すべての人に快適な学校

児童生徒はもちろんのこと、学校に訪れるすべての方々が利用しやすく、集い、語り、学べる場としてのユニバーサルデザイン化を進める。

4. 地域開放型のランチルーム

ランチルームは給食時に食事をする以外にも、グループ活動や、地域住民が集う場としても活用することができる。地域開放型のランチルームを整備し、地域の方々との交流を図るとともに、地産地消や周辺農家との連携を図っていく。

5. 木の温もりを感じる学校

学校施設に木材を利用し、柔らかで温かみのある環境を提供することで、子どもたちのストレス緩和につながったり、校舎の心地よさを感じたりすることができる空間とする。

また、木造校舎については、建設工期がRC造に比べて短期間で済むことから、児童生徒数急増の喫緊の課題への対応策としても有効であるほか、耐用年数が22年とされているが、適切なメンテナンスを行うことで長く使うこともでき、かつ、RC造に比べ柔軟性があることから、増築や新築にあたっては、木造校舎の建築についても検討する。

6. 環境負荷の低減

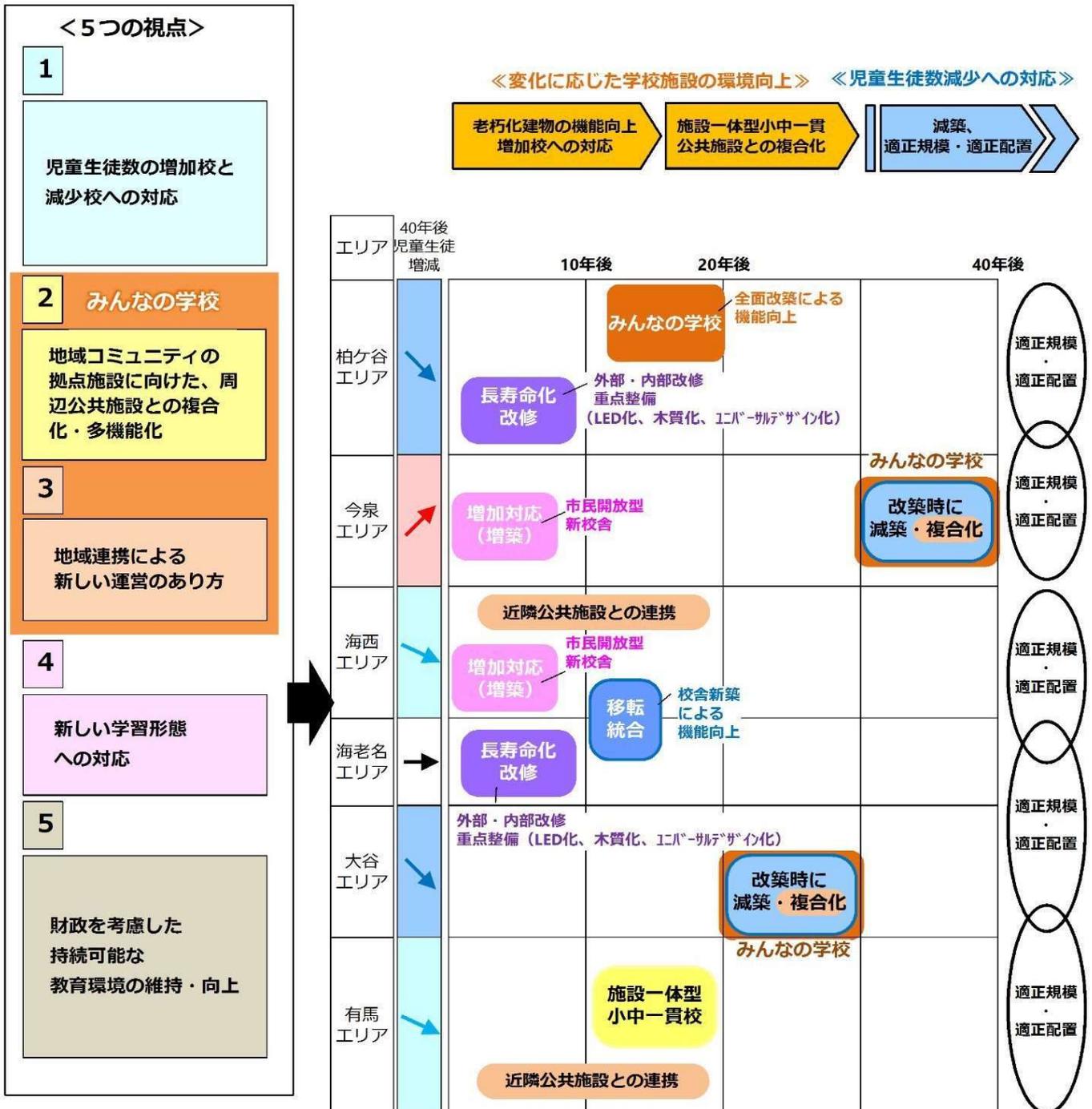
維持管理経費の削減に有効な、新素材や最先端技術を積極的に採用し、未来型の省エネルギーに対応した学校を整備する。また、太陽光発電及び蓄電設備等を導入し、災害時や緊急時にも強い学校を目指す。

7. 子どもたちの願いがかなう学校環境

高層校舎建設、エレベーターの設置、校庭の芝生化・人工芝化、遊具の充実、動物とのふれあいの場など、児童生徒へのアンケート結果等において希望が多かった、学校環境の整備についても、検討していく。

Ⅲ. 学校施設再整備方針

学校施設再整備の方針について、6つの中学校ごとに各エリアの今後40年における変化に応じた学校施設的环境向上、児童生徒数の増減への対応等を考慮しながら、「児童生徒数の増加校と減少校への対応」、「地域コミュニティの拠点施設に向けた、周辺公共施設との複合化・多機能化」、「地域連携による新しい運営のあり方」、「新しい学習形態への対応」、「財政を考慮した持続可能な教育環境の維持・向上」の5つの視点から整理したので、次の図のとおり答申する。



その他委員からの意見

委員会においては、各委員からの意見や提案が多岐にわたり、それらをさまざまな視点から議論していく中で、この答申を導きだした。少数意見も含め、学校整備を進める際に留意する意見を例示する。

<施設整備に関すること>

- 改修工事時プレハブで過ごし、校庭も狭く運動等ができなかった子がいる。改修工事が終わりのきれいな校舎で過ごせる子どもは良いが、工事中に卒業などしてしまった子どもはかわいそうである。工事は短期間で行えるようにしたほうがよい。
- 今は財政的に余裕があるかもしれないが、このままではいずれ財政難により立ち行かなくなるので、施設をなるべくコンパクトにしなければならない。
- 海老名駅周辺の開発により、児童生徒数の増加が見込まれることから、教室不足とならないよう児童生徒数の推移を見極めながら学校規模の適正化を図る対策が必要である。
- 海老名型コミュニティスクールを推進しているが、地域開放を考慮し、教室のレイアウト変更も含めた施設整備の検討が必要だと思う。
- 海老名市教育委員会が進める、小中一貫教育の動きと連携した施設整備の検討が必要だと思う。
- 施設規模をコンパクトにしなくてはいけないことも理解できるが、余裕があることで、豊かな教育活動が展開できるという面もある。

<一貫校について>

- 一貫教育の重要性も理解できるが、保護者の中にはきちんと「区切る」ことが大事だと考える人もいる。
- 小中一貫校だけでなく、中高一貫校など、県立施設との交流もあっていいのではないか。

<再編について>

- 学校再編を検討する際には、跡地活用が非常に重要である。地域の特性にあった跡地活用の方向性についても、再編検討の段階であわせて検討するべきである。
- 近隣市の小中学校との統合も考えられるのではないか（教育委託など）。

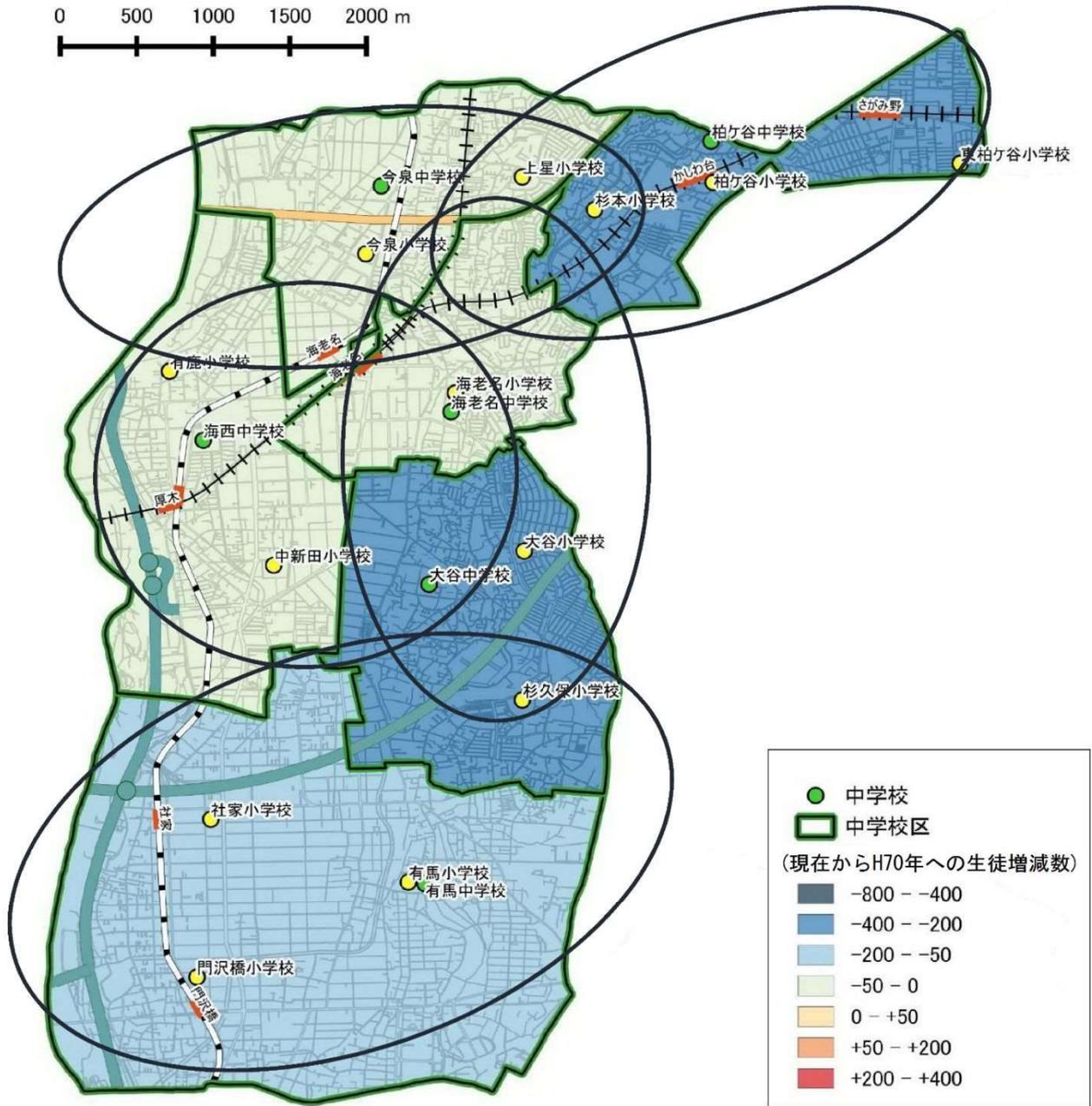
<計画全体について>

- “まち”全体として学校がどうあるべきかを考え、計画化してほしい。
- 「学校数や面積が減っても、教育環境が向上する」ということが大事である。施設のハード面だけでなく、教育・運用などソフト面がどう充実するかが、非常に重要である。

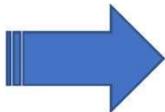
<複合化について>

- 教育機能と必ずしもリンクしない機能であっても、地域コミュニティに必要な施設となら複合化する、というように考えても良い。
- 駅直近の学校は通勤時に送迎しやすい保育所と、交通不便地域の学校は車での送迎が多い高齢者施設との複合化が良いのではないか。

再編エリアイメージ図



再編エリア取り組み手順



- 学校再編については、原則エリア単位で検討。
- エリア内で、地域の拠点となるような学校を設定。
- 小中一貫校等、課題のある学校を検討。
- 施設の老朽化や課題の大小により、優先順位を決定。
- 地域や学校関係者と協議し、学区の調整等により再編を推進。

むすびに

学校は、児童生徒、保護者と教職員はもちろんのこと、その地域のみなさんの思いや協力により支えられ、築きあげられてきたものです。

しかし時の流れとともに、学校施設の老朽化、財源不足への対応、学校ICT化やユニバーサルデザイン化、そして小中一貫教育やコミュニティ・スクール等、社会の要請や学校のあり方に対する考え方が変化し、学校も変化が求められています。

本検討委員会では、11回の審議を通じ、広くこれらの課題等について議論を重ねてまいりました。

その中で、共通することは、将来、児童生徒数が減少し、施設維持や改修する財源不足が想定される中、「次の世代に付けを回さない」ために「我々大人たちが今何をすべきか」という点でした。

また、学校規模の適正化の議論にあたっては、学校は、少子化・核家族化が進む現代社会において、人間関係や集団のルール、自己抑制力等、様々な力を身に着ける重要な場であり、「たくましい」えびなっ子を育てる意味からも学区再編などにより、適正な学校規模を維持することは有益であるとの結論に至りました。

さらに、地域社会における人間関係が希薄化する中、学校は地域におけるコミュニティの核として機能することが求められており、他の公共施設との複合化や多機能化を図り、子どもから高齢者まで幅広い市民が集い、語らい、学べる場、つまり「みんなの学校」として進化していくことが望ましいとの結論にも至りました。

今後、学校・地域、行政が連携し、一体となって学校の再整備を進めていく必要があります。学校施設の再整備を通じ、現在及び未来の海老名の子どもたちに夢をもって人生を歩むことができるよう、実施にあたっては、以上の点を十分に考慮のうえ進めていただくことを希望いたします。

委員名簿

(順不同、敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
委員長	葉養 正明	大学教授	文教大学教育学部教授
委員長 職務代理	城向 秀明	学識経験者	海老名市都市計画審議会委員、海老名市外部評価委員会委員、海老名市公共施設再編計画策定委員会委員
委員	佐藤 晴雄	大学教授	日本大学文理学部教授
委員	加藤 昌義	学識経験者	神奈川県建築士事務所協会海老名支部、海老名市公共施設再編計画策定委員会委員
委員	萩原 好三	学識経験者	海老名市自治会連絡協議会
委員	三木 紀子	学識経験者	海老名市 PTA 連絡協議会
委員	上田 貴康	学識経験者	海老名市中学校校長会
委員	梅崎 玲子	学識経験者	海老名市小学校校長会

〔資料編〕

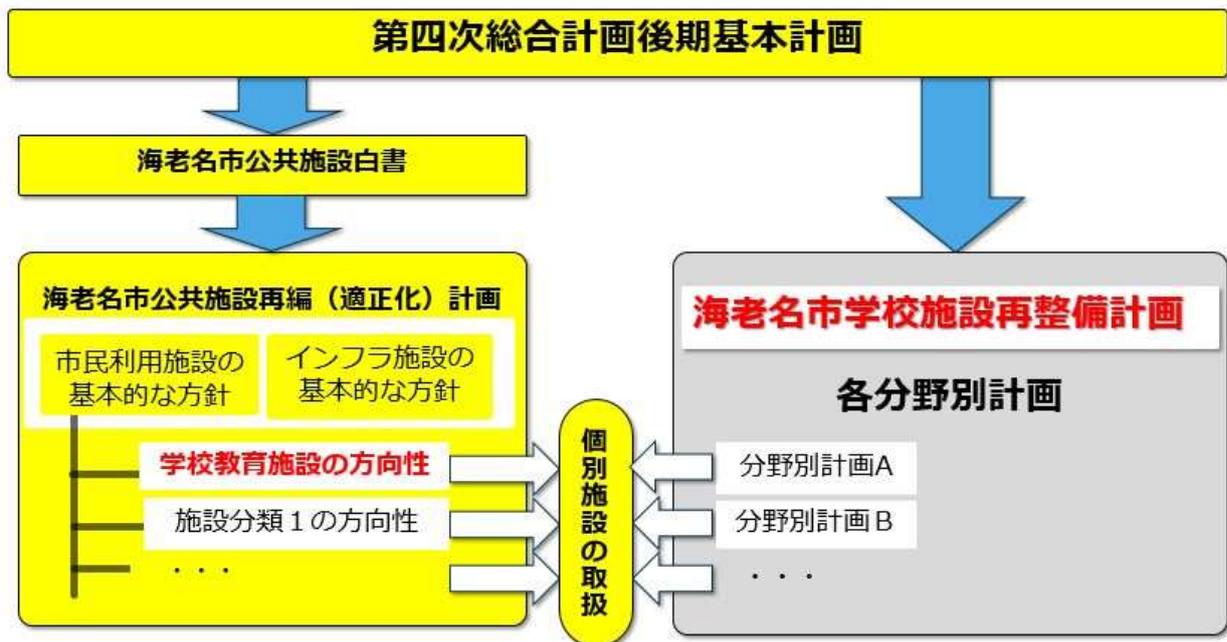
第1章 計画の背景・目的

第1章 学校施設再整備計画の背景・目的等

1. 計画の位置づけ

本計画は、平成 28 年度策定の「海老名市公共施設再編（適正化）計画（以下「再編計画）」の分野別計画に位置付けられるもので、老朽化の進む校舎の「長寿命化」とともに「少子化」や「将来の学校施設のあり方」に対応した施設の再編など、具体的な計画を示すものです。

再編計画では、将来の公共施設のあり方を検討し、再編・適正化を進めるための基本的な考え方や取り組みの方向性が示されました。



2. 基本的な考え方

「持続可能」な「夢」のある計画

本計画は、学校施設の再整備を行うことで、本市の「持続可能」な行政運営を可能とするとともに、現在及び未来のえびなの子どもたちに「夢」を与えることができる計画を策定します。

【短期計画（10年）】

学校施設（校舎、屋外運動場）の整備を計画的に実施することで、「良好な環境」を維持すると共に「施設の長寿命化」を進め、整備コストの縮減を検討します。

【中長期（20年）・超長期（40年）計画】

○ 児童・生徒数の推移や他の公共施設の機能を踏まえ、「小中学校及び他の公共施設の再編」、「小中一貫教育の推進」及び「施設の効率化」を検討します。

- 従前の学校施設の枠にとらわれず、児童・生徒はもちろんのこと、地域住民の利用を考慮し、学校を地域コミュニティの核とすべく、地域に愛される施設となるよう「多機能化」、「複合化」の検討をします。

3. 計画期間

2019年から2058年までの40年間

4. 対象施設

市立学校 19校（小学校 13校、中学校 6校）を対象とします。
対象棟数は 77棟、延床面積合計 12.1万㎡です。

5. その他

児童・生徒数の推移などを踏まえ、概ね10年ごとに見直しを図ることとします。

第2章 学校施設を取り巻く現状と課題

第2章 学校施設を取り巻く現状と課題

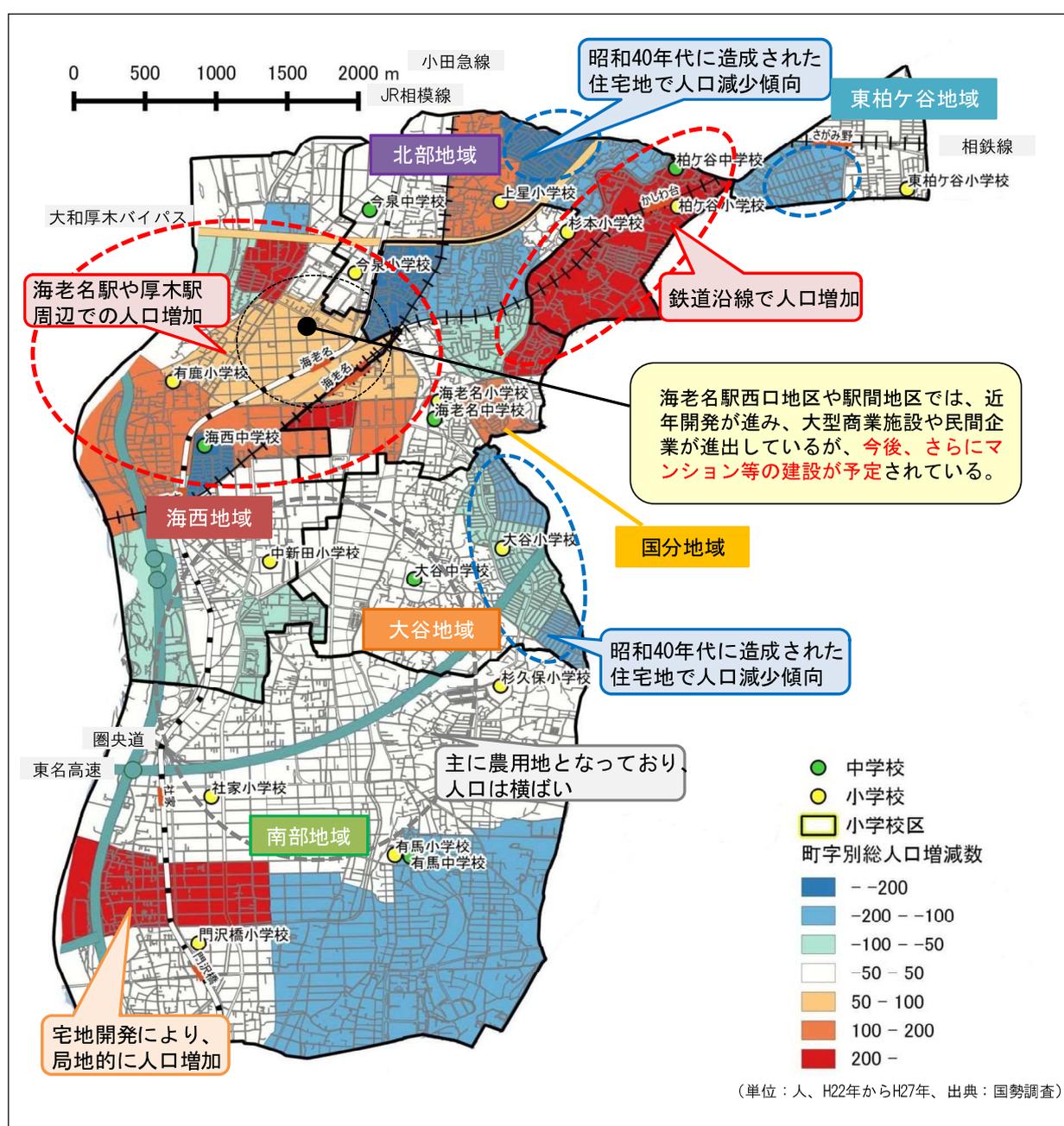
1 人口動態と将来人口の見通し

(1) 近年の人口動態

近年、鉄道沿線で宅地開発が進み、海老名駅や厚木駅の周辺などで人口が増加しています。

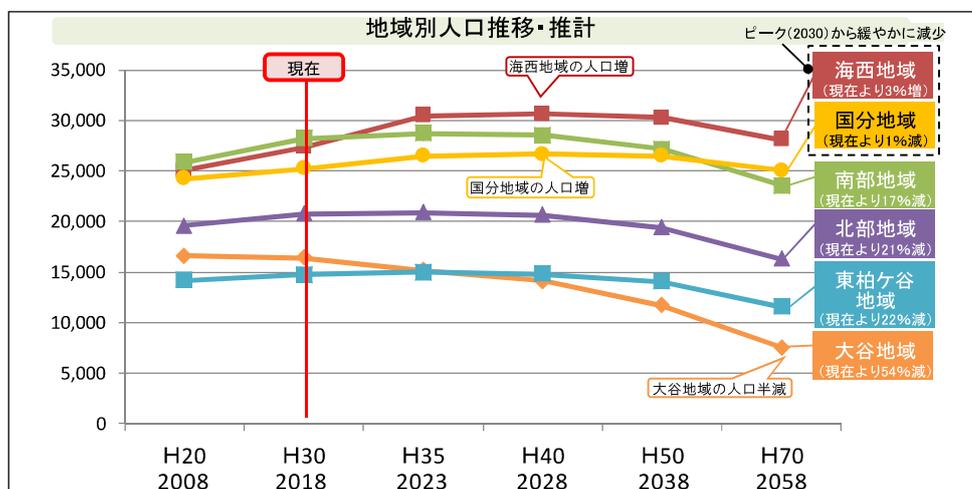
また、沿線からやや離れた地点でも住宅地が拡大しており、人口が増加傾向にあるほか、今泉小学校区にあたる海老名駅西口地区や駅間地区では、今後さらにマンション等の建設が予定されており、人口が急増することが想定されます。

一方で、昭和40年代に造成された上星小学校や大谷小学校周辺の住宅地では人口減少が生じています。

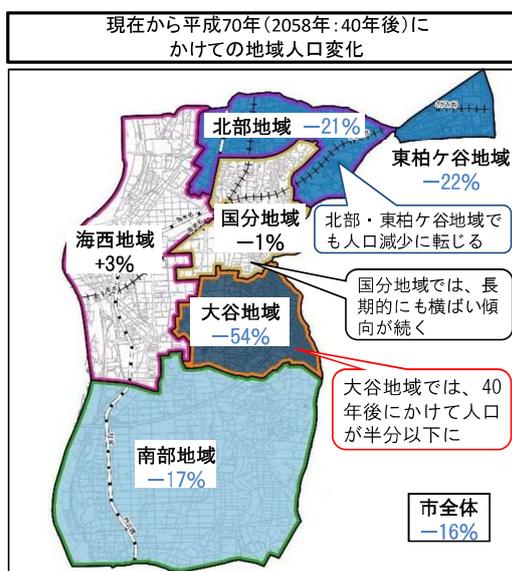
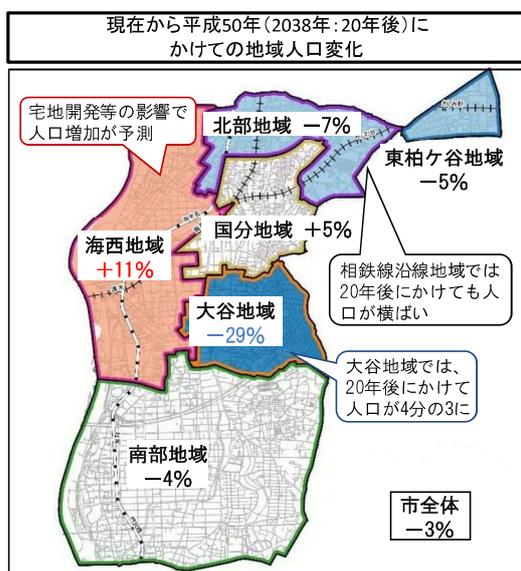
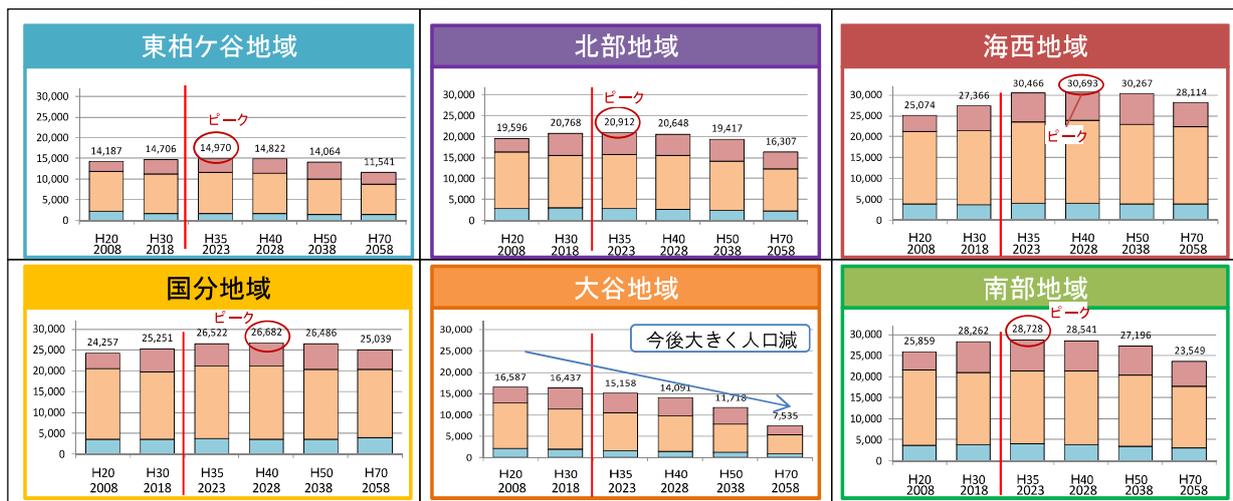


(2) 地域別将来推計

地域ごとの人口推計では、今後20年は海西地域・国分地域の増加、大谷地域の減少が予測されていますが、その他の地域はほぼ横ばいで推移する見込みです。その後、国分地域は減少に転じるため、今後40年では、全地域で現在より人口が下回ると予測されます。



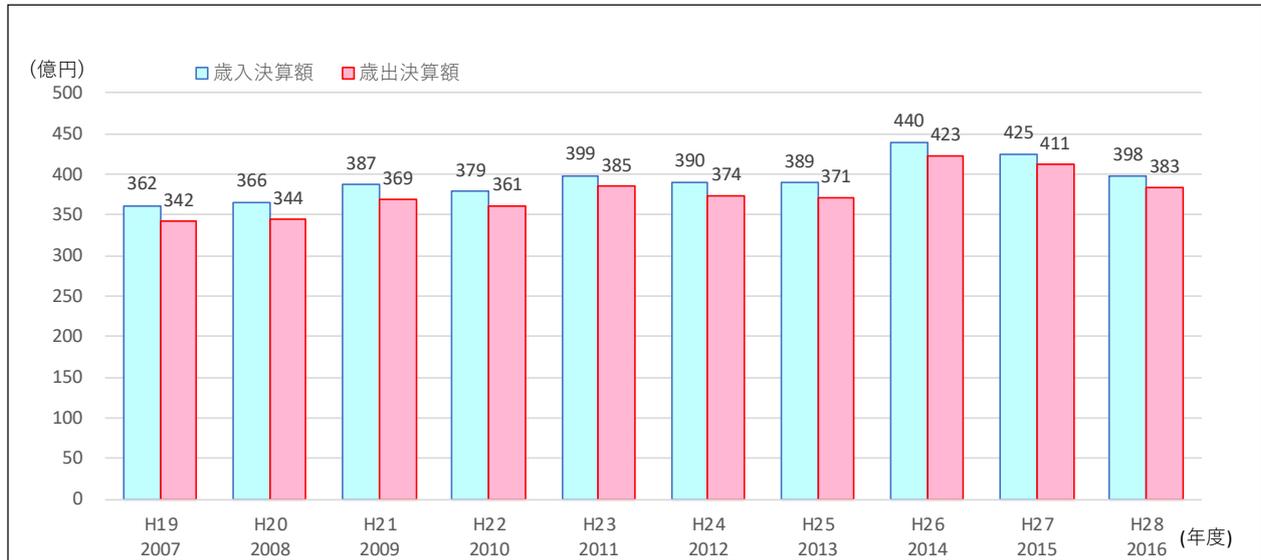
(出典：実績値→海老名市公共施設白書、推計値→海老名市公共施設白書を基に推計)



2. 財政状況

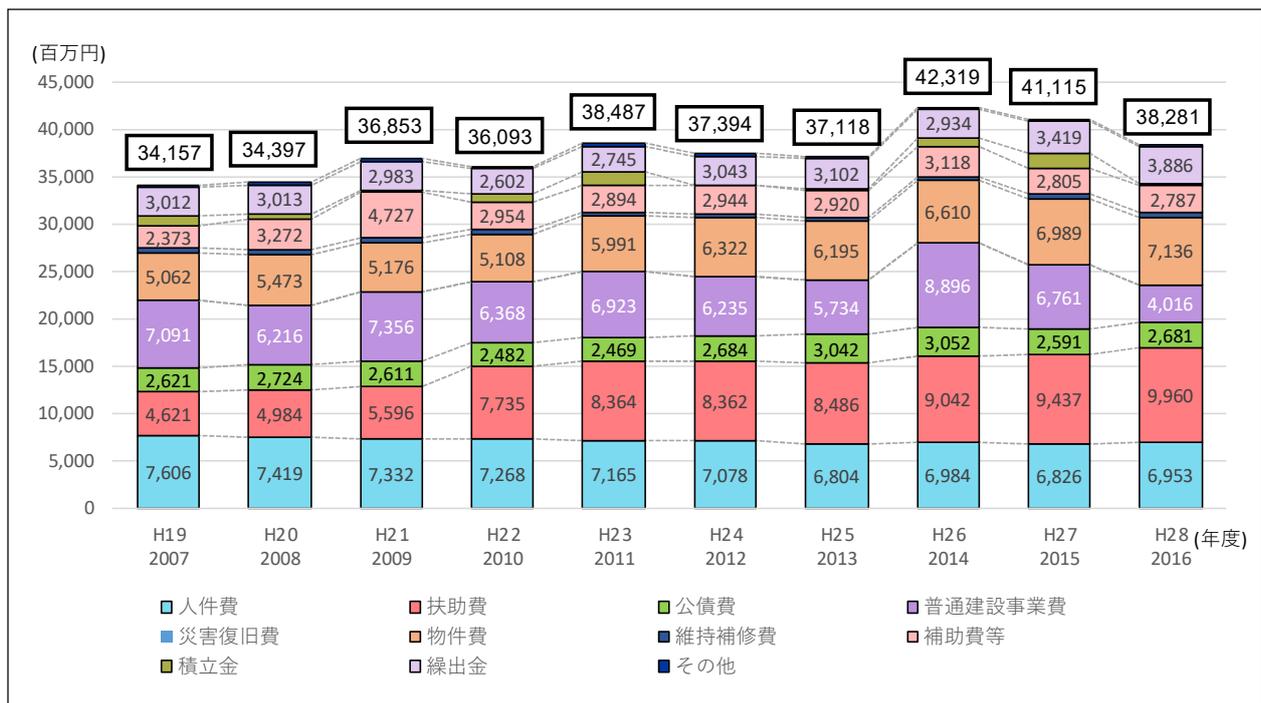
(1) 財政規模

本市の財政規模を一般会計の歳入・歳出決算額でみると緩やかな増加傾向にあります。歳出決算額では、平成 18 年度の 316 億円に対し、平成 26 年度以降は 400 億円を超える水準になっています。



(2) 歳出の推移

歳出決算額を性質別にみると、主に生活保護や児童手当等の社会保障に対する支出である扶助費が増加を続けていることが影響して歳出決算額も増加傾向にあり、平成 26 年度以降は 400 億円を超えています。扶助費は、障がい者自立支援給付費などのサービス利用の増加が続いており、今後も高い水準で推移することが予測されますが、一方で、平成 28 年度の普通建設事業費は、海老名駅西口公共施設整備事業や中央図書館大規模改修事業などが完了したことなどから、前年度に比べ大幅な減少となりました。



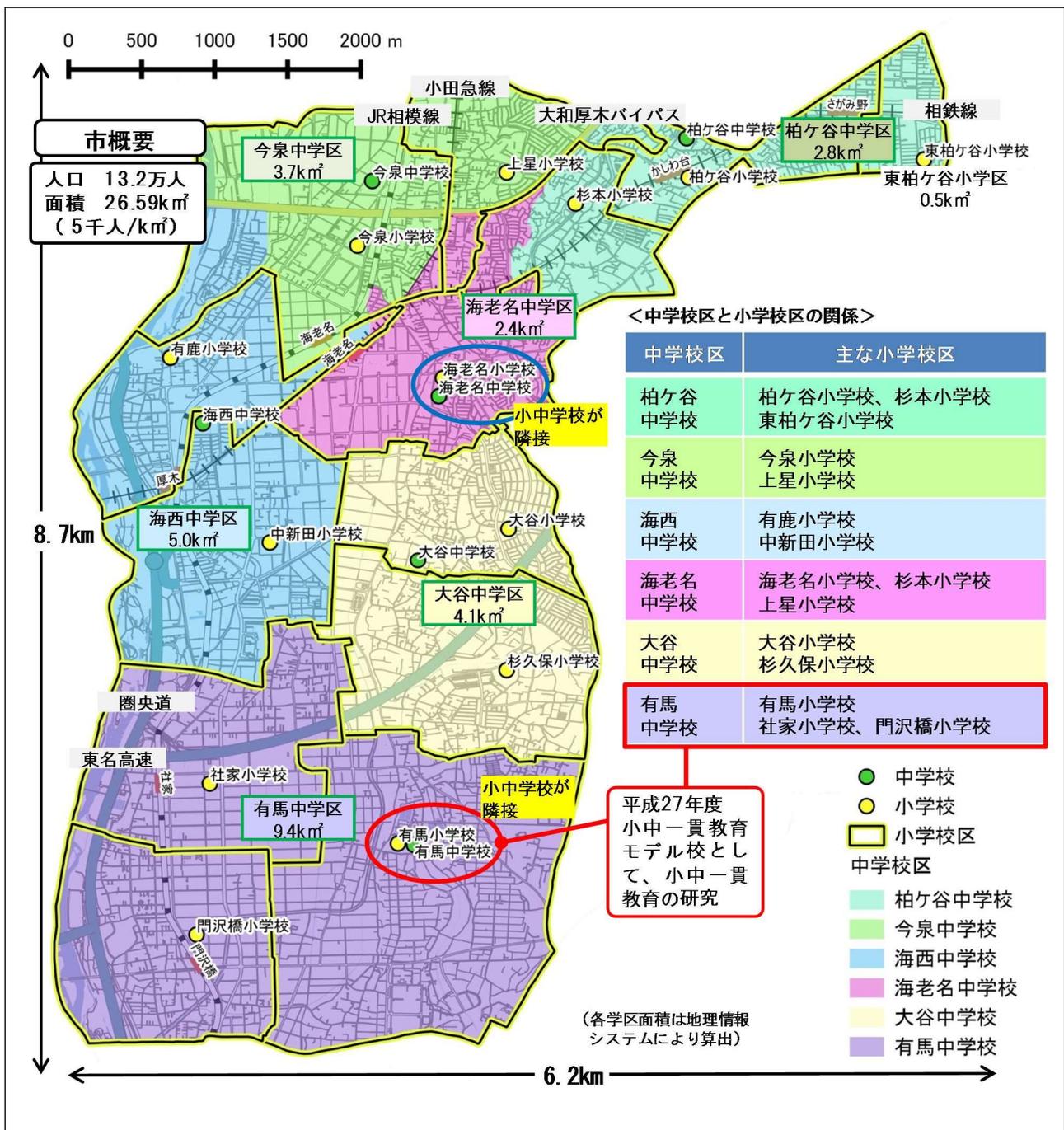
(出典：海老名市公共施設再編（適正化）計画)

3. 学校施設の概要

(1) 配置状況

市域面積は 26.59k m²です。各小学校区の面積は東柏ケ谷小学校の 0.5k m²～有馬小学校の 4.4k m²となっており、各中学校区の面積は、海老名中学校の 2.4 k m²～有馬中学校の 9.4 k m²となっています。

中学校6校に対し、小学校が2～3校ずつ配置されており、平成28年度より各学校で施設分離型の小中一貫教育を実施しています。



(2) 学校施設一覧

学校施設は以下のとおりです。

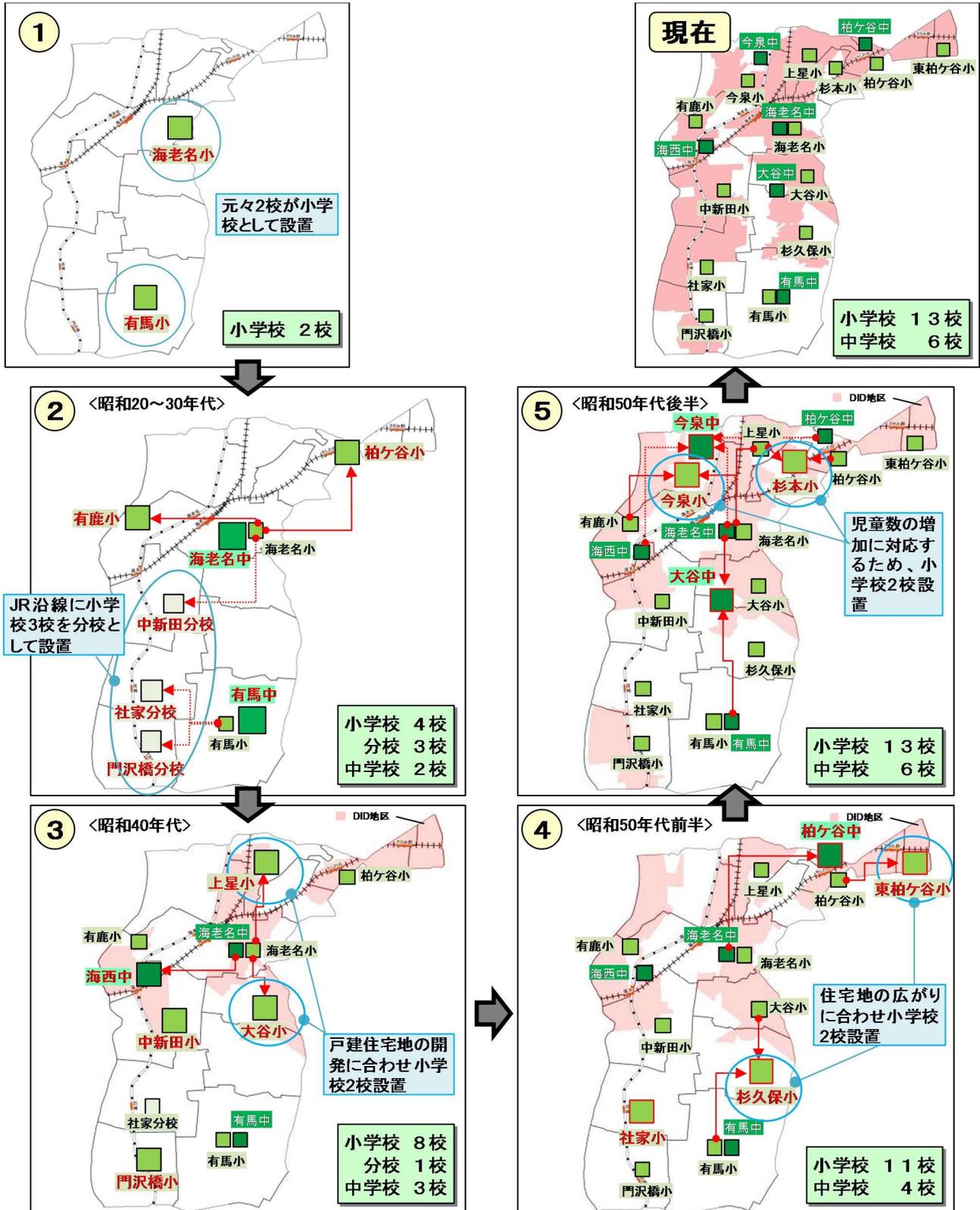
	名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	開校 年度	児童生徒数(人)		学級数(学級)		複合・併設	
						通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別 支援		
小学校	1	海老名小学校	国分南3-12-3	17,484	7,279	明治42	895	19	25	5	海老名小学校隣接
	2	柏ヶ谷小学校	柏ヶ谷1090	14,360	5,814	昭和39	479	10	15	3	
	3	有鹿小学校	河原口3-13-1	13,121	5,497	昭和31	554	10	18	3	
	4	中新田小学校	中新田1-15-1	22,377	5,478	昭和47	435	17	14	3	学童複合
	5	有馬小学校	中河内1784	15,016	5,388	明治25	245	5	9	2	有馬中学校隣接
	6	門沢橋小学校	門沢橋1-19-1	15,738	4,833	昭和48	526	12	16	4	学童複合
	7	大谷小学校	国分台2-13-1	16,436	6,240	昭和44	557	11	18	3	
	8	上星小学校	上今泉1-23-1	23,163	6,682	昭和47	666	11	19	2	学童複合
	9	東柏ヶ谷小学校	東柏ヶ谷6-9-7	10,136	6,747	昭和50	448	10	14	2	給食調理室・市民図書室
	10	社家小学校	社家678	16,839	4,642	昭和53	453	6	14	2	学童併設
	11	杉久保小学校	杉久保北4-4-1	26,931	6,284	昭和54	563	9	18	3	
	12	今泉小学校	上今泉2028	21,820	7,131	昭和56	671	9	20	2	
	13	杉本小学校	国分北4-10-1	14,847	5,435	昭和57	560	8	18	2	
小学校計			228,268	77,450		7,052	137	218	36		
中学校	1	海老名中学校	国分南3-11-1	20,608	8,261	昭和22	563	10	16	2	海老名中学校隣接
	2	有馬中学校	本郷4601	19,381	7,351	昭和22	596	9	16	3	有馬小学校隣接
	3	海西中学校	さつき町58	21,735	6,680	昭和49	487	12	14	3	
	4	柏ヶ谷中学校	柏ヶ谷884	20,240	7,432	昭和51	709	14	20	3	
	5	大谷中学校	大谷南2-10-1	21,575	6,820	昭和55	557	6	15	2	
	6	今泉中学校	上今泉1840	25,366	6,763	昭和59	541	5	16	2	
中学校計			128,905	43,307		3,453	56	97	15		
学校施設合計			357,173	120,757		10,505	193	315	51		

(出典：学校施設台帳(平成30年度)、児童生徒教職員数調べ(平成30年5月1日現在))

(3) 小中学校の変遷

海老名市の小中学校は、海老名小学校（中学校）と有馬小学校（中学校）を発祥として、人口増加などに合わせて分離独立して設置されてきたものです。

人口急増期の昭和40～50年代の15年間で13校の学校を新設しているため、整備環境や老朽化状況が類似しているものと考えられます。



4. 課題

(1) 人口減少

全国的に総人口が減少に転じている中、本市の人口は、現在でも増加傾向にあります。平成30年8月1日現在の住民基本台帳によると、本市の総人口は約13.2万人となっています。当面は、海老名駅周辺のまちづくり等の影響により総人口は増加が続くものの、今後10年程度の期間にピークを迎え、その後は減少に転じると見込まれています。

また、地域別にみると、今後も開発が続くエリアや、成熟したエリアなど地域の状況はさまざまです。

このような状況変化にあわせた施設規模の見直しや今後の学校施設のあり方など、地域の実情に適切に対応する必要があります。

(2) 財政見直し

上位計画である「公共施設再編（適正化）計画」では、現在、市が保有している公共施設を、現状と同規模で将来にわたって保有し続けることを想定した場合に、大規模改修や更新等に必要となる費用（以下「将来費用」という。）の試算結果を平成27(2015)年度から平成91(2079)年度までの65年間でみると、公共施設全体にかかる将来費用の総額は2,334億円（平均35.9億円/年）となっています。これは、投資限度額の概ね2倍の水準となっており、65年間の不足額累計は約1,200億円、年あたりに換算すると18.6億円に上ることから、これらの将来費用の負担に備えて、学校施設も計画的な対応を図ることが必要になります。

(3) 施設の老朽化

本市の公共施設は、高度成長期とバブル期に多くの建物が整備され、バブル期以降もペースは緩やかながら施設の整備が続いており、高度成長期に整備され建設から30年以上経過した建物が全体の約5割を占めています。また、バブル期においても急速なペースで施設整備が行われており面積全体の約3割を占めています。学校施設については、築30年以上の棟が全体の86%を占めており、公共施設の中でも特に老朽化が進行している可能性があります。

今後、老朽化に伴う不具合は確実に増加することが予測されるから、今後、大規模改修や更新等の対策を確実に実施することが課題になります。

第3章 児童生徒数・学級数の将来予測

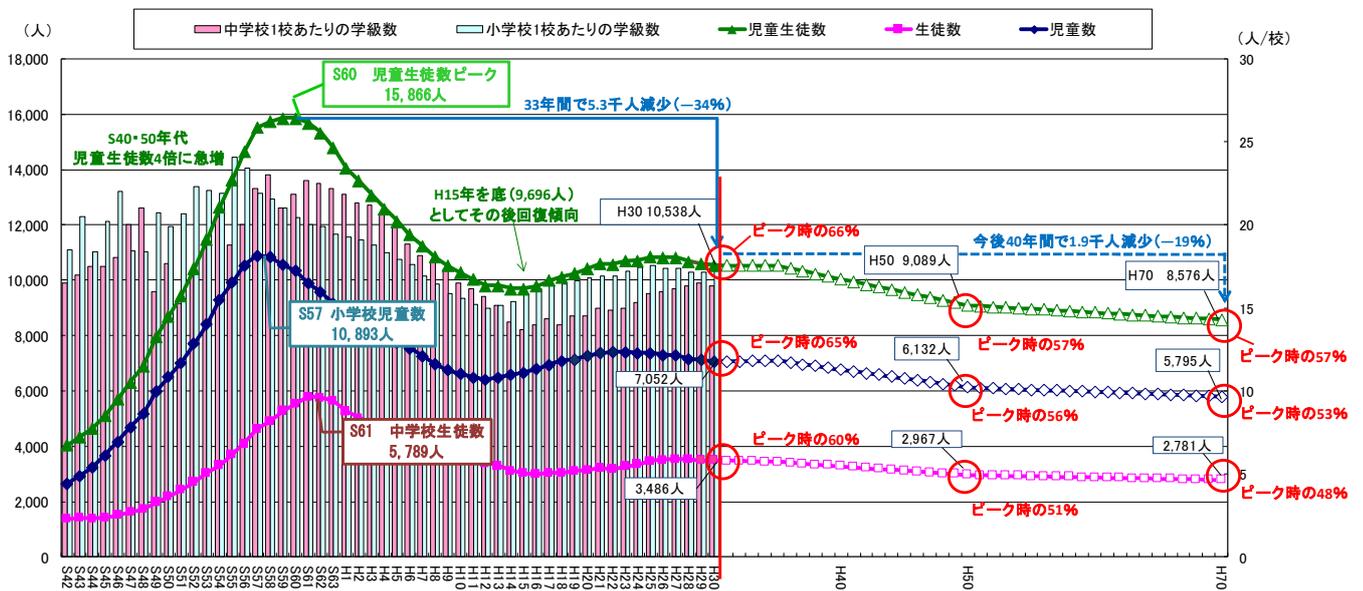
第3章 児童生徒数・学級数の将来予測

1. 市立小中学校の児童生徒数の推移と将来予測

海老名市の児童生徒数は昭和40年代から50年代にかけて急増し、昭和60年度に15,866人とピークを迎え、平成15年度の9,696人まで減少を続けましたが、その後は、微増傾向で推移しています。

平成30年の児童生徒数は10,538人とピーク時の66%となっており、ピーク時から33年間で約5,300人減少しています。

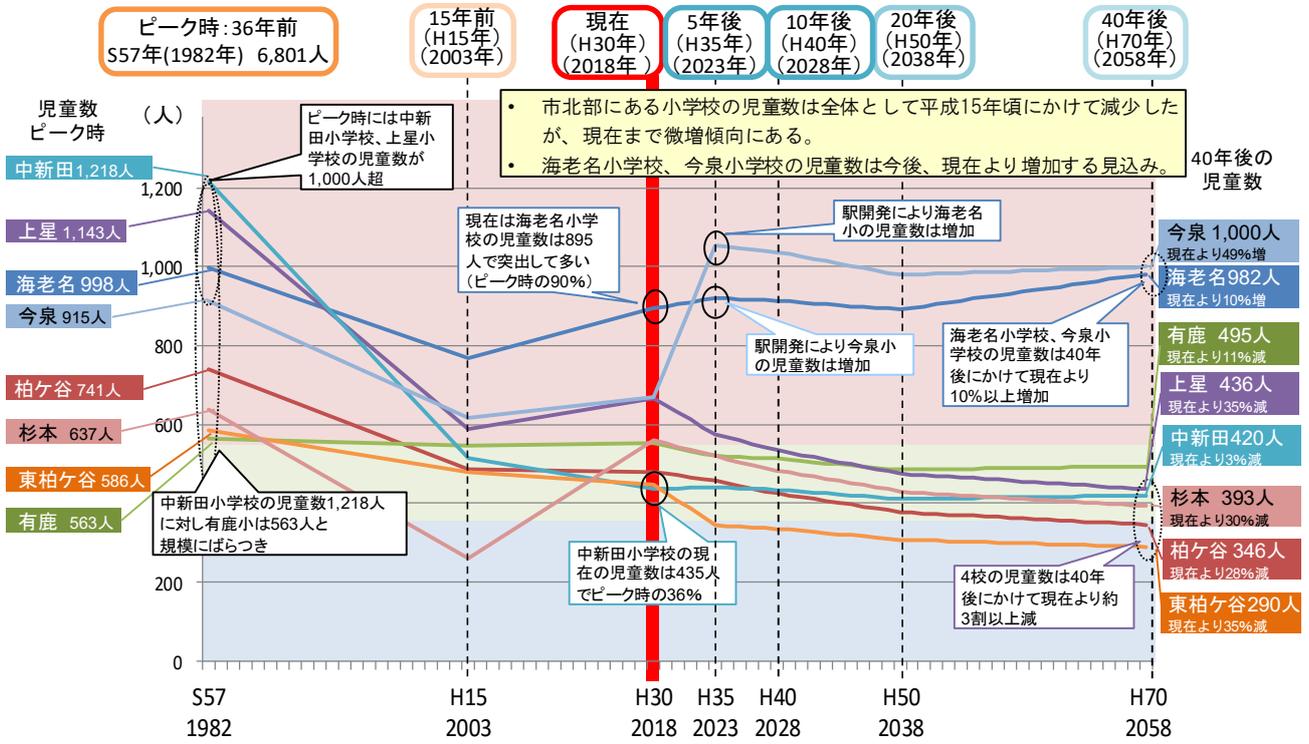
海老名市公共施設白書（平成26年策定）の人口推計を基に今後の児童生徒数を推計したところ、40年後（平成70年）には、約1,900人の減少となっておりますが、海老名駅周辺の学校については、マンション等の建設により児童生徒数が増加すると見込まれる学校もあります。



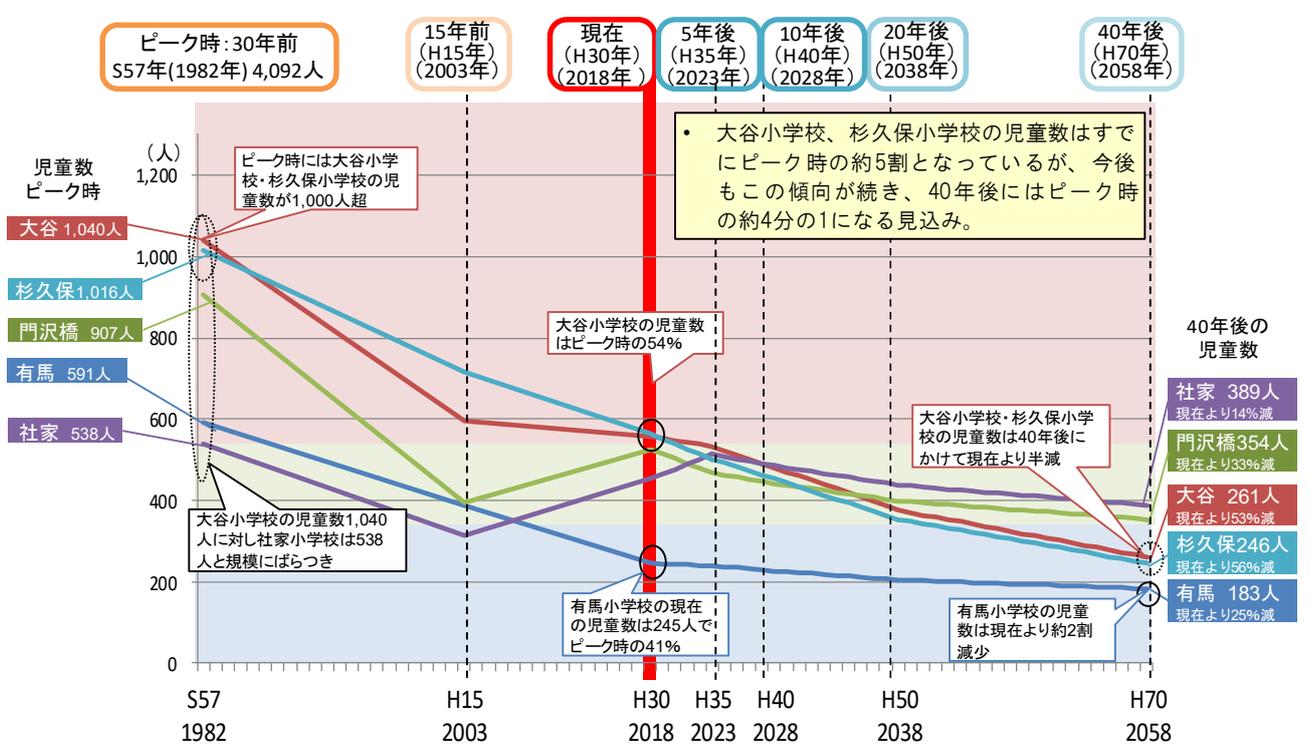
(出典:各年度児童生徒教職員数調 推計:各学校別推計の合計、P.8以降、特別支援学級を含まない)

(1) 小学校の児童数

① 小学校 (市北部)



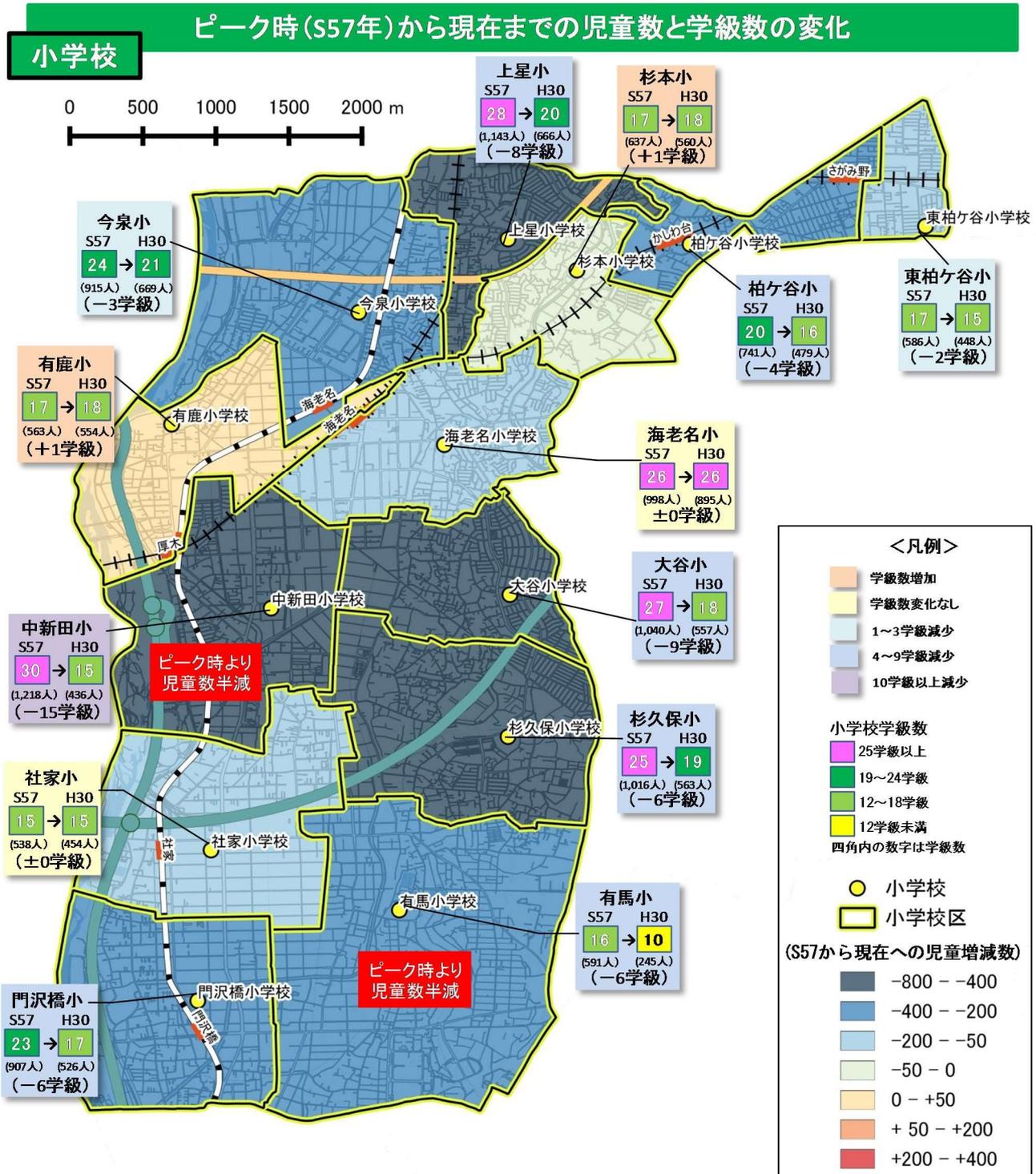
② 小学校 (市南部)



2. 学級数の変化

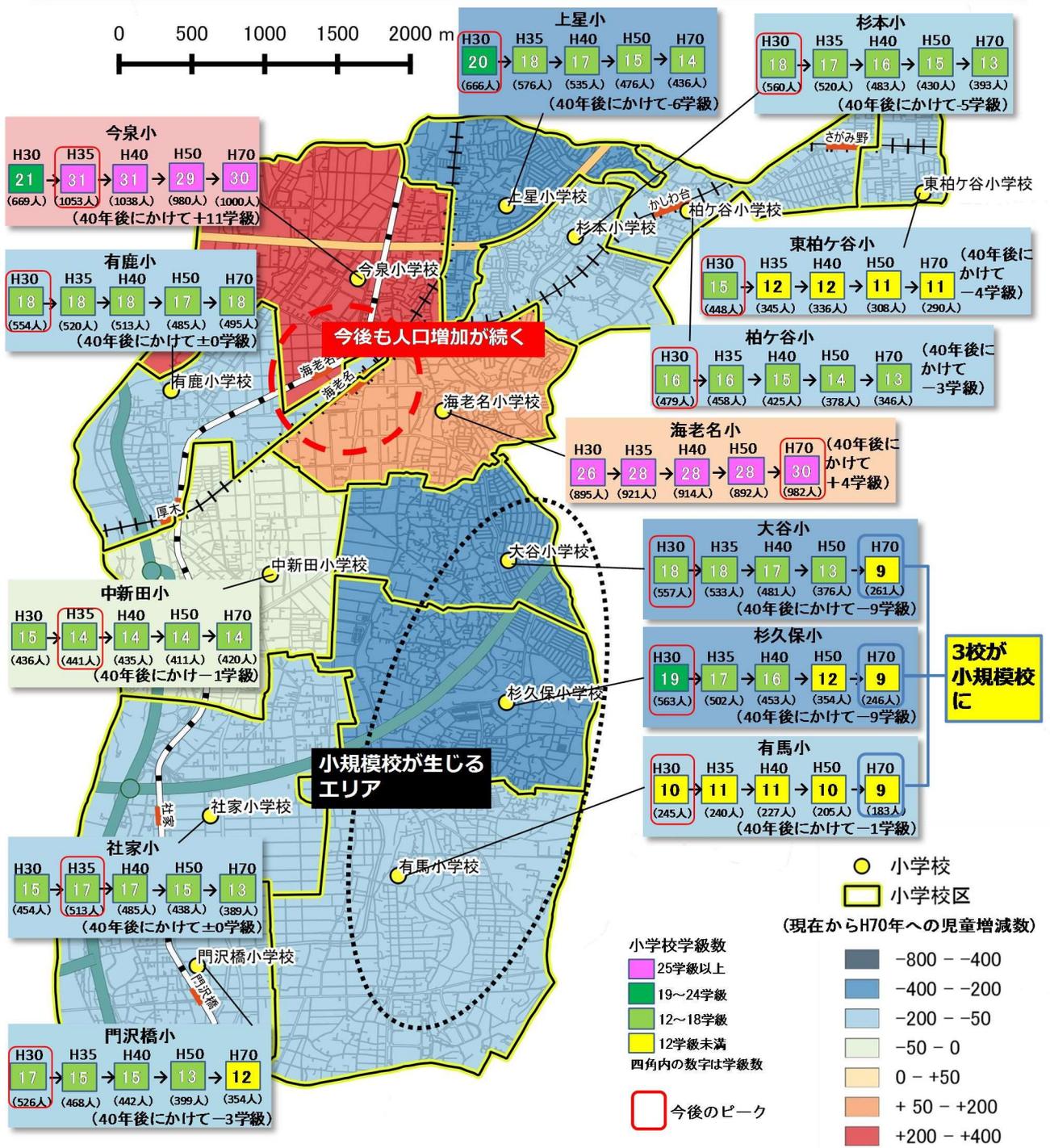
小学校の児童数は昭和57年にピークを迎え、現在は9校で学級数が減少している一方で、少人数学級の導入に伴う1学級当たりの児童の少人数化により、2校で学級数が増加しています。

中学校の生徒数は昭和61年にピークを迎え、現在は全ての学校で10%以上の生徒数及び学級数が減少しています。

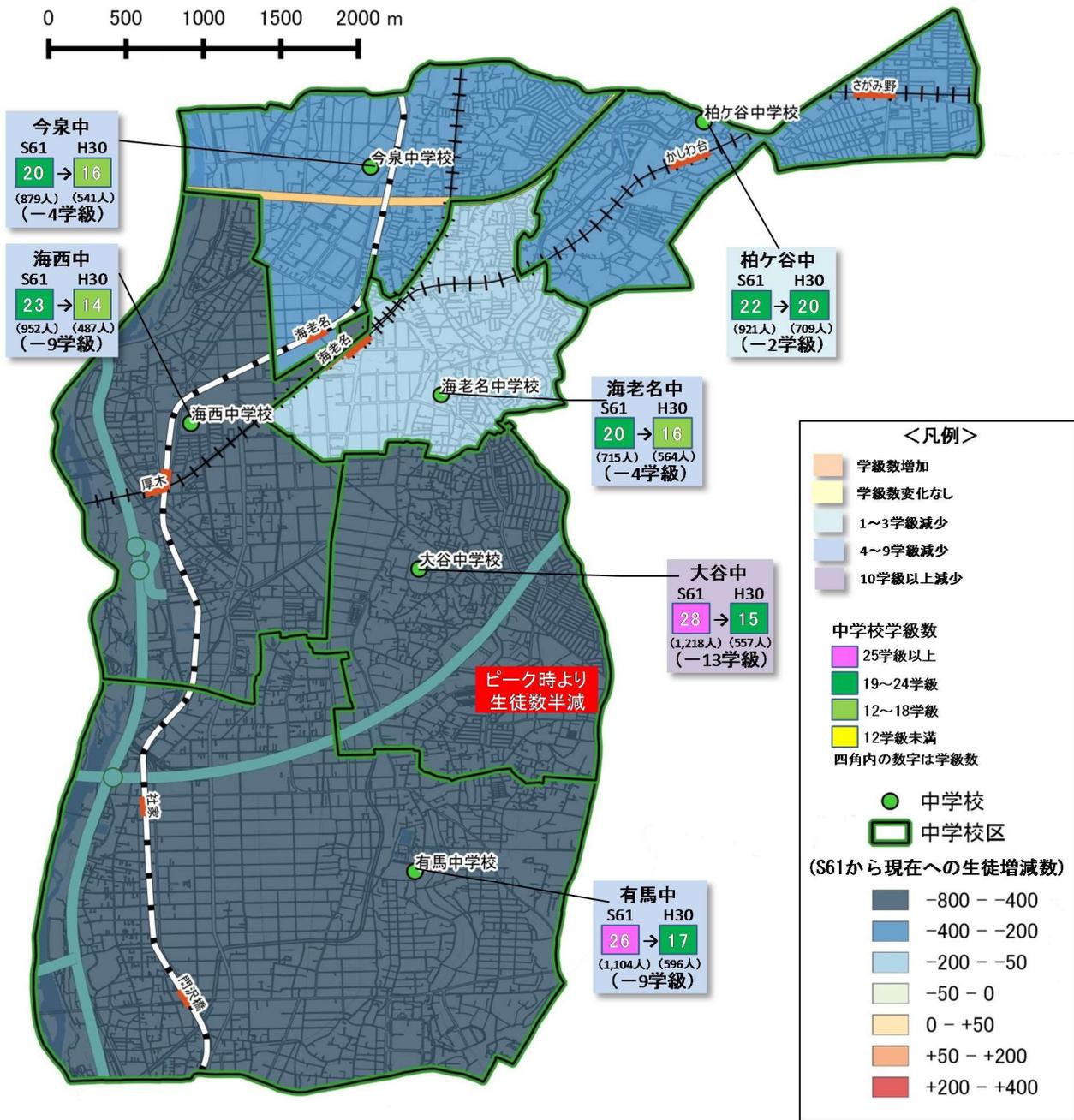


将来的な学級数は、現在の学級数あたりの児童数を維持すると仮定した場合、40年後（平成70年）には東柏ヶ谷小学校・大谷小学校・杉久保小学校・有馬小学校が児童数300人を下回り、大谷中学校で小規模校（12学級未満）となる一方で、開発が進む海老名駅周辺地区が学区となっている海老名小学校・今泉小学校は今後も大規模校（25学級以上）として推移すると想定されます。

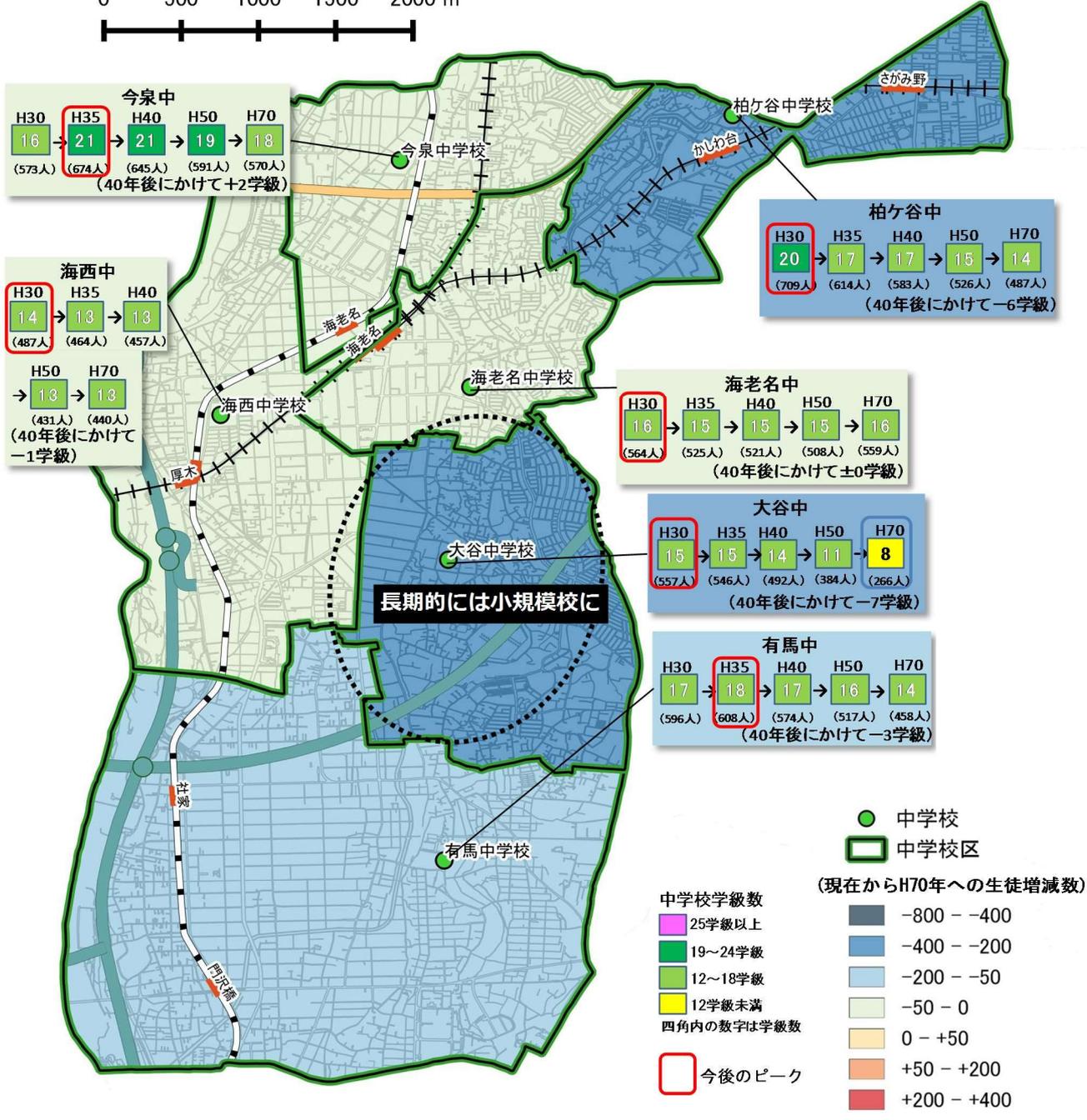
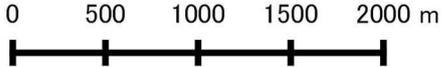
現在から将来(40年後)への児童数と学級数の変化



中学校 ピーク時(S61年)から現在までの児童数と学級数の変化



現在から将来(40年後)への生徒数と学級数の変化



第4章 学校施設の老朽化状況の把握

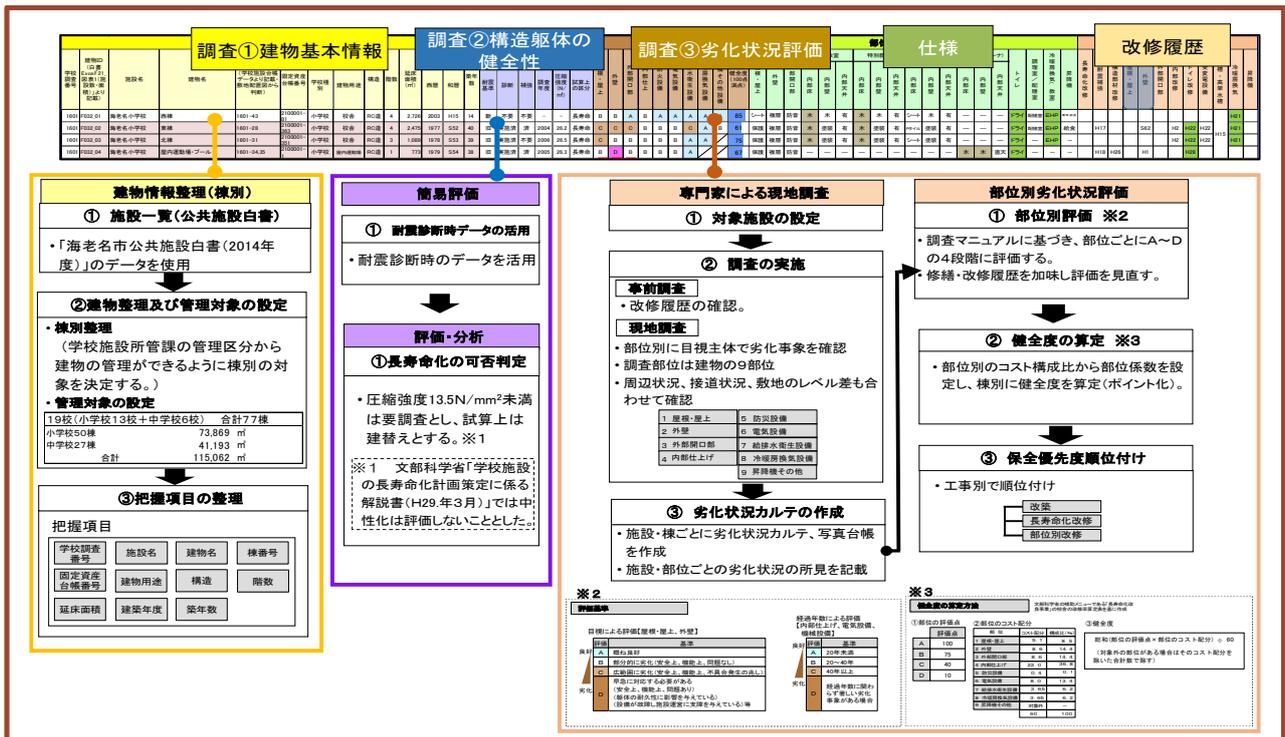
第4章 学校施設の老朽化状況の把握

市内の学校施設は、体育館を含めて小学校 50 棟、中学校 27 棟、合計 77 棟あります。

また、その多くは、児童や生徒が急増した昭和 40 年代後半から 50 年代後半にかけて整備されたもので、現在、築年数が 30 年を超える施設は、全体の約 8 割を占めています。

1. 学校施設の老朽化状況の把握フロー

学校施設を、管理する棟ごとに老朽化状況の調査を実施しました。調査にあたっては、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」（以下「解説書」という。）の「第2章 計画策定のための建物情報の整理」に従って、以下に方法を示します。



(1) 建物基本情報(基礎情報)

海老名市公共施設白書(平成26年)のデータに基づき、棟別の基本情報を整理しました。

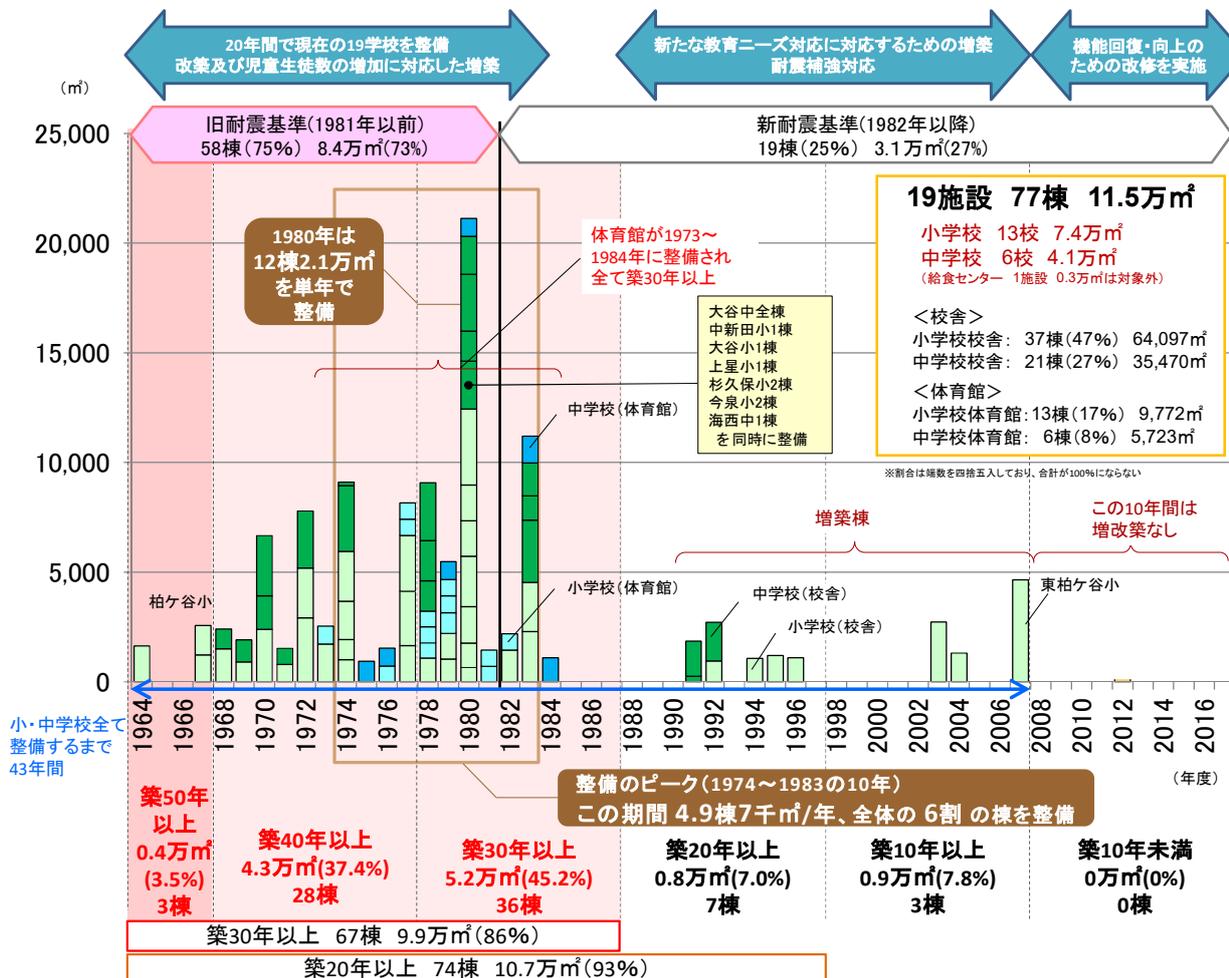
① 建物種別保有量

全体保有量は、小学校 50 棟、7.4 万m²、中学校 27 棟 4.1 万m²で、平均では小学校は平均約 5,700 m²/校、中学校は平均約 6,800 m²/校となっています。

建物用途		棟数	延床面積	合計	
小学校	校舎	37 棟	64,097 m ²	50 棟	73,869 m ²
	屋内運動場	13 棟	9,772 m ²		
中学校	校舎	21 棟	35,470 m ²	27 棟	41,193 m ²
	屋内運動場	6 棟	5,723 m ²		
総合計				77 棟	115,062 m ²

② 築年別整備状況

築30年以上の棟は全体の86%を占めており、老朽化が進行している可能性があります。そのうち1974年から1983年の10年間に6割が集中して整備されており、今後改修・改築が集中する時期が来ることが予想できます。



③ 学校施設の整備経緯の特徴

尋常高等小学校を経て、小学校2校（海老名小学校・有馬小学校）、中学校2校（海老名中学校・有馬中学校）からスタートし、昭和39～58年までの20年間で、現在の19校を整備しました。

最初に開校した4校と有馬小学校は昭和43～52年（築40～50年経過）に改築、その他の学校は開校に合わせて建物を整備しました。

昭和52年（40年前）以前に整備した学校は1～3年おきに増築しながら段階的に整備（校舎増築）しました。また、児童数の増加やパソコン室等新たなニーズに対応するため棟の増築を実施（生徒数の急激な増加とニーズ対応による校舎増築）しました。

昭和52年（40年前）以降に整備した学校は、開校に合わせて間をあげず一括で整備（学校増設）しました。増築した棟は、余った敷地に建てられているため、ゾーニング・動線等の面で、使い勝手が悪いといった事例がみられます。

④ 学校施設の特徴

校舎はほとんどRC（鉄筋コンクリート）造で、増築棟の一部にS（鉄骨）造（有鹿小東館）、LGS（軽量鉄骨）造（海西中2棟西側）です。

屋内運動場は、RC+S造、RC造、S造の3タイプがあります。（RC+S造は15棟、RC造は3棟、S造1棟）

プールの利用は全校で廃止しており、地上設置型のプールは解体が済んでいますが、校舎及び屋内運動場の屋上にあるプールは使用しないままの状況となっていますので、今後改修時に撤去などの検討が必要です。

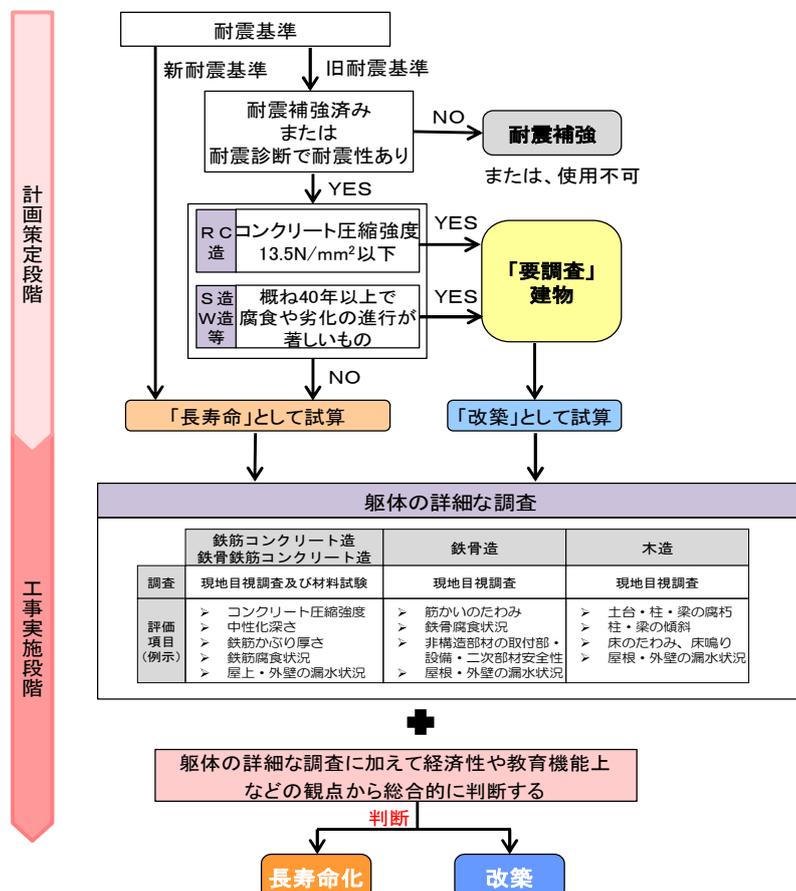
（2）構造躯体の健全性

平成7年から平成18年に実施した耐震診断時のデータによるコンクリートの圧縮強度から、長寿命化の可否の診断を行いました。

① 耐震基準の内訳

新耐震基準	19棟(25%)
旧耐震基準	58棟(75%) (耐震補強不要17棟・耐震補強済41棟)
合計	77棟(100%)

② 長寿命化の判定フロー



③長寿命化の判定結果（古い棟をもつ学校順）

判定結果では、全ての棟で長寿命化が可能と判断できます。

★：屋上・外壁の劣化が進行している学校

通し番号	学校調査番号	施設名	建物基本情報					構造躯体の健全性								
			建物名	構造	延床面積 (㎡)		築年数	耐震安全性			耐震評価					
					西暦	和暦		耐震基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上の区分			
5	1602	★ 柏ヶ谷小学校	南棟	RC造	1,632	1964	S39	53	旧	実施済	済	1997	21.8	長寿命		
6			北棟1	RC造	1,234	1967	S42	50	旧	実施済	済	1997	26.4	長寿命		
7			北棟2	RC造	804	1971	S46	46	旧	実施済	済	1997	18.2	長寿命		
9			屋内運動場	S造	803	1973	S48	44	旧	不要	不要	-	-	長寿命		
8			中棟	RC造	950	1992	H4	25	新	不要	不要	-	-	長寿命		
10			1603	有鹿小学校	本館東側	RC造	1,343	1967	S42	50	旧	実施済	済	1996	19.9	長寿命
11					本館西側	RC造	911	1974	S49	43	旧	実施済	済	1996	19.9	長寿命
12					西館	RC造	1,051	1979	S54	38	旧	実施済	済	1996	28.0	長寿命
14			1608	大谷小学校	屋内運動場	RC+S	716	1981	S56	38	旧	不要	不要	-	-	長寿命
13	東館	S造			1,311	2004	H16	13	新	不要	不要	-	-	長寿命		
25	1609	上星小学校			南棟東側	RC造	1,512	1968	S43	49	旧	実施済	済	1997	20.7	長寿命
26					南棟西側	RC造	915	1969	S44	48	旧	実施済	済	1997	20.7	長寿命
27					北棟西側	RC造	1,734	1973	S48	44	旧	実施済	済	1997	16.1	長寿命
29					屋内運動場	RC+S	1,200	1976	S51	41	旧	実施済	済	1997	31.1	長寿命
28	北棟東側	RC造	710	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1997	26.0	長寿命				
51	4471	海老名中学校	1棟西側	RC造	905	1968	S43	49	旧	実施済	済	1999	24.0	長寿命		
52			1棟東側	RC造	1,000	1969	S44	48	旧	実施済	済	2005	24.0	長寿命		
53			2棟西側	RC造	1,527	1970	S45	47	旧	実施済	済	1999	20.8	長寿命		
54			2棟東側	RC造	731	1971	S46	46	旧	実施済	済	1999	20.8	長寿命		
55			3棟	RC造	2,600	1972	S47	45	旧	実施済	済	1999	21.8	長寿命		
56			屋内運動場	RC+S	1,211	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命		
30	1609	上星小学校	1館	RC造	2,398	1970	S45	47	旧	実施済	済	1997	22.6	長寿命		
31			2館	RC造	1,754	1974	S49	43	旧	実施済	不要	1997	18.2	長寿命		
33			屋内運動場	RC+S	739	1977	S52	40	旧	実施済	済	2000	28.9	長寿命		
32			3館	RC造	1,862	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1997	29.9	長寿命		
57	4472	★ 有馬中学校	A棟・中央	RC造	2,738	1970	S45	47	旧	実施済	済	1999	28.1	長寿命		
60			屋内運動場	RC造	944	1975	S50	42	旧	実施済	済	1999	19.7	長寿命		
58			B棟・東側	RC造	1,390	1978	S53	39	旧	実施済	済	2005	42.0	長寿命		
59	1604	中新田小学校	C棟・西側	RC造	1,767	1992	H4	25	新	不要	不要	-	-	長寿命		
15			西棟	RC造	2,257	1972	S47	45	旧	実施済	済	1997	20.0	長寿命		
16			東棟中央	RC造	1,652	1977	S52	40	旧	実施済	済	1997	20.5	長寿命		
18	1605	★ 有馬小学校	屋内運動場	RC+S	739	1977	S52	40	旧	実施済	済	2000	28.9	長寿命		
17			東棟東側	RC造	654	1980	S55	37	旧	実施済	済	1997	24.3	長寿命		
19	1606	門沢橋小学校	中央棟・東棟	RC造	2,928	1972	S47	45	旧	実施済	済	2005	20.8	長寿命		
21			屋内運動場	RC造	943	1979	S54	38	旧	実施済	済	1999	19.7	長寿命		
20			西棟	RC造	1,070	1994	H6	23	新	不要	不要	-	-	長寿命		
22	1606	門沢橋小学校	1棟	RC造	2,262	1974	S49	43	旧	実施済	済	1995	23.0	長寿命		
24			屋内運動場	RC+S	738	1978	S53	39	旧	実施済	済	1995	42.7	長寿命		
23	2棟	RC造	1,160	1979	S54	38	旧	実施済	済	1995	35.9	長寿命				

通し番号	学校調査番号	施設名	建物基本情報					構造躯体の健全性						
			建物名	構造	延床面積 (㎡)		築年数	耐震安全性			耐震評価			
					西暦	和暦		耐震基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上の区分	
34	1610	★ 東柏ヶ谷小学校	北棟	RC造	1,016	1974	S49	43	旧	実施済	不要	1998	14.7	長寿命
36			屋内運動場・プール	RC造	690	1978	S53	39	旧	実施済	不要	1998	23.7	長寿命
35			南棟・給食室含む	RC造	4,641	2007	H19	10	新	不要	不要	-	-	長寿命
61	4473	海西中学校	1棟西側	RC造	3,009	1974	S49	43	旧	実施済	済	1995	20.3	長寿命
62			1棟東側	RC造	1,155	1974	S49	43	旧	実施済	済	1995	20.3	長寿命
65			屋内運動場	RC+S	823	1976	S51	41	旧	実施済	済	2005	21.7	長寿命
63			2棟東側	RC造	2,182	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1995	30.5	長寿命
64	2棟西側	LGS造	255	1991	H3	26	新	不要	不要	-	-	長寿命		
2	1601	★ 海老名小学校	東棟	RC造	2,475	1977	S52	40	旧	実施済	済	2004	26.2	長寿命
3			北棟	RC造	1,089	1978	S53	39	旧	実施済	不要	2006	26.5	長寿命
4			屋内運動場・プール	RC造	773	1979	S54	38	旧	実施済	済	2005	26.3	長寿命
1			西棟	RC造	2,726	2003	H15	14	新	不要	不要	-	-	長寿命
37	1611	社家小学校	本館	RC造	2,551	1977	S52	40	旧	実施済	済	1996	23.4	長寿命
39			屋内運動場	RC+S	700	1978	S53	39	旧	実施済	済	2005	20.6	長寿命
38			新館	RC造	1,194	1995	H7	22	新	不要	不要	-	-	長寿命
66	4474	★ 柏ヶ谷中学校	西棟	RC造	1,832	1978	S53	39	旧	実施済	不要	1999	24.5	長寿命
67			北棟	RC造	2,638	1978	S53	39	旧	実施済	済	1999	24.1	長寿命
69			屋内運動場	RC+S	828	1979	S54	38	旧	実施済	済	2004	21.5	長寿命
68	南棟	RC造	1,600	1991	H3	26	新	不要	不要	-	-	長寿命		
40	1612	杉久保小学校	管理教室棟・東側校舎	RC造	2,300	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	26.4	長寿命
41			普通教室棟・中央校舎	RC造	1,621	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	26.4	長寿命
42			普通教室棟・西側校舎	RC造	1,448	1982	S57	35	新	不要	不要	-	-	長寿命
43			屋内運動場	RC+S	733	1979	S54	38	旧	実施済	済	2005	20.6	長寿命
44	1613	今泉小学校	A棟・北側	RC造	1,626	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1998	34.4	長寿命
45			B棟・南東側	RC造	3,468	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1998	28.0	長寿命
46			C棟・南西側	RC造	1,105	1996	H8	21	新	不要	不要	-	-	長寿命
47	屋内運動場	RC+S	739	1981	S56	36	旧	不要	不要	-	-	長寿命		
70	4475	大谷中学校	西棟	RC造	1,363	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	41.7	長寿命
71			中央棟	RC造	2,587	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	46.6	長寿命
72			東棟	RC造	1,741	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	43.9	長寿命
73	屋内運動場	RC+S	818	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	23.5	長寿命		
48	1614	杉本小学校	1館	RC造	2,297	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命
49			2館	RC造	2,235	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命
50			屋内運動場	RC+S	738	1982	S57	35	新	不要	不要	-	-	長寿命
74	4476	今泉中学校	A棟	RC造	2,835	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命
75			B棟	RC造	1,112	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命
76			C棟	RC造	1,504	1983	S58	34	新	不要	不要	-	-	長寿命
77	屋内運動場	RC+S	1,101	1984	S59	33	新	不要	不要	-	-	長寿命		

コンクリート圧縮強度
13.5N/mm²以下

0棟

コンクリート圧縮強度
13.5N/mm²超
18.0N/mm²以下

2棟

圧縮強度は満足している

旧耐震基準の建物で耐震診断時のコンクリートの圧縮強度13.5N/mm²以下の棟はないため全棟長寿命化が可能であると判断できる。

※ ただし目視調査において、屋上・外壁に劣化が進んでいる5校(海老名小学校、柏ヶ谷小学校、有馬小学校、柏ヶ谷中学校、有馬中学校)については詳細調査が必要である。

圧縮強度を満足しているため、「現段階では全棟で長寿命化が可能」です。

(出典：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」文部科学省 平成29年3月)

(3) 躯体以外の劣化状況評価

専門家による全棟の劣化状況目視調査を、市の実情に合わせて9部位（解説書では5部位）実施し、評価結果を「劣化状況カルテ」としてまとめました。

- 屋上・外壁が未改修で劣化の進行している学校は5校あるが、部位別に改修を実施しているため、全体ではC・D評価が少ない。
- 外部開口部は建築後未改修のため、全体に経年劣化が進行している。
- 内部仕上げはフローリング改修及び壁面の塗装履歴があるものの、経年劣化が進行している。
- トイレ、冷暖房設備については、近年全校で改修を実施したため良好である。

部 位	仕 様	改 修 履 歴
屋上	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎棟は、シート防水（34棟）・塗膜防水（12棟）がほとんどを占め、一部保護防水（9棟）、金属（2棟）、廃止プール跡（1棟）の棟あり ・屋内運動場は金属葺き棟（16棟）、廃止プールが屋上にある棟（2棟） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H19～26年にかけて改修工事を実施（48棟）
外壁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装：複層塗材（69棟）、リシン吹付け（7棟）、金属板（1棟） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H9～H26年にかけて順次実施（49棟）
外部開口部	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミサッシ <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般仕様：8校 ・ 防音仕様：11校 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全棟で建築当時から未改修
内部仕上	<ul style="list-style-type: none"> <校舎棟> <ul style="list-style-type: none"> ・ 床：（教室）木質フローリング（54棟） 長尺シート（3棟）、Pタイル（1棟） ・ 壁：塗装（53棟）、木質化（4棟）、パネル（1棟） ・ 天井：（校舎）PB、吸音板（58棟） <屋内運動場（体育室）> <ul style="list-style-type: none"> ・ 床：木質フローリング（19棟） ・ 壁：板貼り（19棟） ・ 天井：断熱吸音板（19棟） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎棟の床の木質フローリングは塗替え改修履歴はあるが、20年以上経過（26棟） ・ 教室の壁・天井の改修は未実施 ・ 小屋組みがS造の屋内運動場は屋根の改修の際に内部の直張り天井の改修は未実施
電気設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分電盤・配線等の改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H19～22年で改修が実施（15校）
給排水衛生設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレは全校でドライ化・多目的トイレ・人感センサー設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28年までにトイレの改修完了 ・ 給水管（縦管）の改修は未実施
冷暖房設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別空調方式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26年までに全校の冷暖房化が完了
エレベーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗用エレベーター設置は2校（海老名小学校・東柏ヶ谷小学校） 	—
非構造部材の耐震	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内運動場の照明（LED）は耐震化完了・教室の照明（蛍光灯）は未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26年に屋内運動場の吊り照明の振れ止め（耐震）は完了

劣化状況	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 改修が実施された棟は良好であるが未改修棟は劣化が進行（C評価：12棟） 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化が進行した未改修棟をもつ学校5校（海老名小学校・柏ヶ谷小学校・有馬小学校・柏ヶ谷中学校・有馬中学校）
<ul style="list-style-type: none"> 劣化が進行した棟では塗膜の剥がれ、露筋が見られる棟あり（C評価：11棟） 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化が進行した未改修棟をもつ学校5校（海老名小学校・柏ヶ谷小学校・有馬小学校・柏ヶ谷中学校・有馬中学校）
<ul style="list-style-type: none"> ベランダドアのガタつきが発生（C評価：19棟） 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の改修時における防音仕様サッシ対象校3校（柏ヶ谷小学校・柏ヶ谷中学校・東柏ヶ谷小学校）
<p>如 参</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室の床は塗替えから20年以上経過しているため経年劣化が全体的に見られる（C評価：16棟） 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の木質フローリングは塗替え時期を迎えている 教室の照明は照度確保・省エネのためのLED化が改修時に必要 屋内運動場の天井は小屋裏の吸音板に黒カビが広範囲に発生（10棟） 屋内運動場の床は、雨漏りが発生したところでは腐食痕が見られる
<p>良好</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近年一斉に改修を実施（キュービクル以外）
<ul style="list-style-type: none"> 築40年を経過した棟が30棟あり給水管の経年劣化が予測（C評価：28棟） 有鹿小学校の本館2棟と西館は早急の改修が必要（D評価：3棟） 	<ul style="list-style-type: none"> トイレは近年一斉に改修を実施したため問題なし 給水管の一部に未改修で早急の対応が必要な棟あり
<p>良好</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近年一斉に改修を実施したため問題はないが次回の改修時期・更新時期が重なって訪れる
<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン化のためエレベーターの設置が改築時に必要
<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教室の吊り照明の照度不足、耐震（振れ止め）が課題

海老名市学校施設 建物情報一覧表

＜築年の古い棟をもつ学校順＞

学校施設総括		
19校(小学校13校+中学校6校)	合計	77棟
小学校50棟		73,869 m ²
中学校27棟		41,193 m ²
合計		115,062 m ²

構造 凡例

RC造: 鉄筋コンクリート造
S造: 鉄骨造
RC+S: 鉄筋コンクリート造と鉄骨造の組合せ
LGS造: 軽量鉄骨造

構造躯体の健全性 凡例

新	新耐震設計対象
旧	旧耐震設計対象
実施済	耐震診断が実施済み
済	耐震補強工事を実施済み
不要	耐震診断の結果不要と判断
長寿命	圧縮強度を満足して長寿命化可能
-	調査データ無し

劣化状況評価 凡例

A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の見え)
D	早急に対応する必要がある

屋根・屋上 凡例

シート: シート防水
塗膜: 塗膜防水
保護: 保護防水
金属: 銅板葺き

外壁 凡例

複層: 複層塗材仕上
リシン: 砂壁状塗装仕上

外部開口部 凡例

防音: 防音サッシ
一般: 一般サッシ

内部床 凡例

木: 木質フローリング
Pタイル: Pタイル貼
シート: 長尺シート貼

内部天井 凡例

有: 吊り天井
直天: 吊り天井無し

内部壁 凡例

木: 板貼り
塗装: 塗装仕上
パネル: パネル仕上

トイレ 凡例

ドライ: ドライ化完了
配膳室/配膳室

冷暖房換気 凡例

EHP: 電気熱源ヒートポンプ方式
GHP: ガス熱源ヒートポンプ
単一: 灯油ヒートポンプ

昇降機 凡例

給食: 小荷物用エレベータ
乗用・給食: 乗用・小荷物用エレベータ併設

凡例

■	仕様(整備レベルA)
■	仕様(整備レベルB)
■	仕様(整備レベルC)
■	改修(10年以内)
■	改修(11~20年以内)
■	改修(21年以上)

児童生徒数減
児童生徒数増

築後30年以上50年未満
築後50年以上

2017
基準年

棟を分けて評価

評価対象外の部位

防音工事補助対象(色なしは今後一般サッシ仕様に改修) - : 該当無し

建物基本情報													構造躯体の健全性				劣化状況評価										部位別・部屋別 仕様													工事履歴(直近の改修年度)																						
学校調査番号	施設名	建物名	棟番号 (学校施設台帳データより記載・敷地配置図から判断)	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		築年数	耐震安全性			簡易評価		健全度(100点満点)	屋根・屋上	外壁	外部開口部	普通教室										廊下等	体育室(アリーナ)	トイレ	調理室/配膳室	冷暖房換気(教室)	昇降機	長寿命化改修	耐震補強	非構造部材改修	屋根・屋上	外壁	外部開口部	内部改修	トイレ改修	受変電設備	受水槽・高架水槽	冷暖房換気	昇降機													
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		耐震基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/m ²)					試算上の区分	外部開口部	内部仕上	防火設備	電気設備	給排水衛生設備	冷暖房換気設備	昇降機その他設備	屋根・屋上	外壁																			外部開口部	内部床	内部壁	内部天井									
1612	杉久保小学校	管理教室棟・東側校舎	1612-1	2120001-98	小学校	校舎	RC造	4	2,300	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	26.4	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A	B	82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	GHP	-	-	-	H20	H20				H21	H21				H22		
		普通教室棟・中央校舎	1612-2	2120001-99	小学校	校舎	RC造	4	1,621	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	26.4	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A	B	82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	配膳室	GHP	給食	-	-	-	H20	H20				H21	H21				H22	
		普通教室棟・西側校舎	1612-2,10	2120001-370	小学校	校舎	RC造	4	1,449	1982	S57	35	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	GHP	-	-	-	H20	H20								H22			
		屋内運動場	1612-5	2120001-368	小学校	屋内運動場	RC+S	1	733	1979	S54	38	旧	実施済	済	2005	20.6	長寿命	A	A	B	B	B	B	B			81	金属	複層	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H18	H26	H21	H21														
1613	今泉小学校	A棟・北側	1613-1	2130001-85	小学校	校舎	RC造	4	1,626	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1998	34.4	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	GHP	-	-	-	H19	H19				H22	H22				H22		
		B棟・南東側	1613-2	2130001-84	小学校	校舎	RC造	4	3,468	1980	S55	37	旧	実施済	不要	1998	28.0	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A	B		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	配膳室	GHP	給食	-	-	-	H19	H19				H22	H22				H22
		C棟・南西側	1613-10	2130001-213	小学校	校舎	RC造	4	1,105	1996	H8	21	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	A	B	A		86	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	GHP	-	-	-	H19	H19				H22	H22				H22		
		屋内運動場	1613-5	2130001-199	小学校	屋内運動場	S造		739	1981	S56	36	旧	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	C	B	B	B			67	金属	複層	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26	H23	H23	H5	H28													
4475	大谷中学校	西棟	4475-1	3050001-96	中学校	校舎	RC造	2	1,363	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	41.7	長寿命	B	A	B	B	B	B	B	A		80	保護	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	EHP	-	H18	H25	H25										H20		
		中央棟	4475-2	3050001-28	中学校	校舎	RC造	4	2,587	1980	S55	37	旧	実施済	不要	2006	46.6	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A	B		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	配膳室	EHP	給食	-	-	-	H25	H25				H22	H22				H20
		東棟	4475-5	3050001-97	中学校	校舎	RC造	4	1,741	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	43.9	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	EHP	-	H18	H25	H25				H22	H22				H20			
		屋内運動場	4475-7	3050001-27	中学校	屋内運動場	RC+S	1	818	1980	S55	37	旧	実施済	済	2005	23.5	長寿命	A	A	B	C	B	B	B			67	金属	複層	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H17	H26	H24	H24				H27										
1614	杉本小学校	1館	1614-3	2140001-105	小学校	校舎	RC造	4	2,297	1983	S58	34	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	B	A	B		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	配膳室	GHP	給食	-	-	-	H21	H21				H22	H22				H22	
		2館	1614-4	2140001-221	小学校	校舎	RC造	4	2,235	1983	S58	34	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	B	A		82	シート	複層	一般	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	GHP	-	-	-	H21	H21				H22	H22				H22			
		屋内運動場	1614-7	2140001-238	小学校	屋内運動場	RC+S	1	738	1982	S57	35	新	不要	-	-	-	長寿命	C	B	B	C	B	B	B			58	金属	複層	一般	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26	H5	H5	H28														
4476	今泉中学校	A棟	4476-3	3060001-234	中学校	校舎	RC造	4	2,835	1983	S58	34	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	B	B	B	A	B		86	シート	複層	防音	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	配膳室	EHP	給食	-	-	-	H19	H19				H21	H21				H20
		B棟	4476-2	3060001-104	中学校	校舎	RC造	2	1,112	1983	S58	34	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	B	B	B	A		86	シート	複層	防音	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	EHP	-	-	-	H19	H19				H21	H21				H20		
		C棟	4476-1,9	3060001-232	中学校	校舎	RC造	2	1,504	1983	S58	34	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	B	B	A		82	シート	複層	防音	木	塗装	有	木	塗装	有	シート	塗装	有	-	-	-	ドライ	-	EHP	-	-	-	H19	H19								H20			
		屋内運動場	4476-6	3060001-226	中学校	屋内運動場	RC+S	1	1,101	1984	S59	33	新	不要	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	B	B			81	金属	複層	防音	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26	H24	H24	H7	H27													

第5章 今後の施設整備・保全の考え方

第5章 今後の施設整備・保全に係るコスト

1. これまでの施設整備と保全方法

これまでの施設整備は、児童生徒数の増加に対応する増築や、施設の劣化に伴う修繕を繰り返してきており、近年校舎は、安全確保のための耐震補強工事、学習環境向上のための冷暖房設置、トイレ改修を集中して実施しています。

また、屋内運動場は、市民の避難所としての機能も備えるため自家発電設備、落下防止対策などを実施してきました。

今後の施設整備は、施設の老朽化に伴う整備コストの増加が見込まれる中、学校施設を長く良好な状況を低コストで維持していく方向で検討する必要があります。

2. 今後の施設整備と保全方法

(1) 改築中心から長寿命化への転換

築 40～50 年で改築するのではなく、施設を長く使える改修等を行うことで長寿命化を図ります。

※築 20～25 年で原状回復を行う大規模改造を実施、築 40～45 年で機能向上を目的とした長寿命化改修を実施し、さらに築 60～65 年で再び大規模改造を行い、概ね築 80 年程度で改築とします。

※改修時点で築 45 年を超える建物は、大規模改造のみ実施し、築 60～65 年で改築とします。

(2) 長寿命化改修と大規模改造の考え方

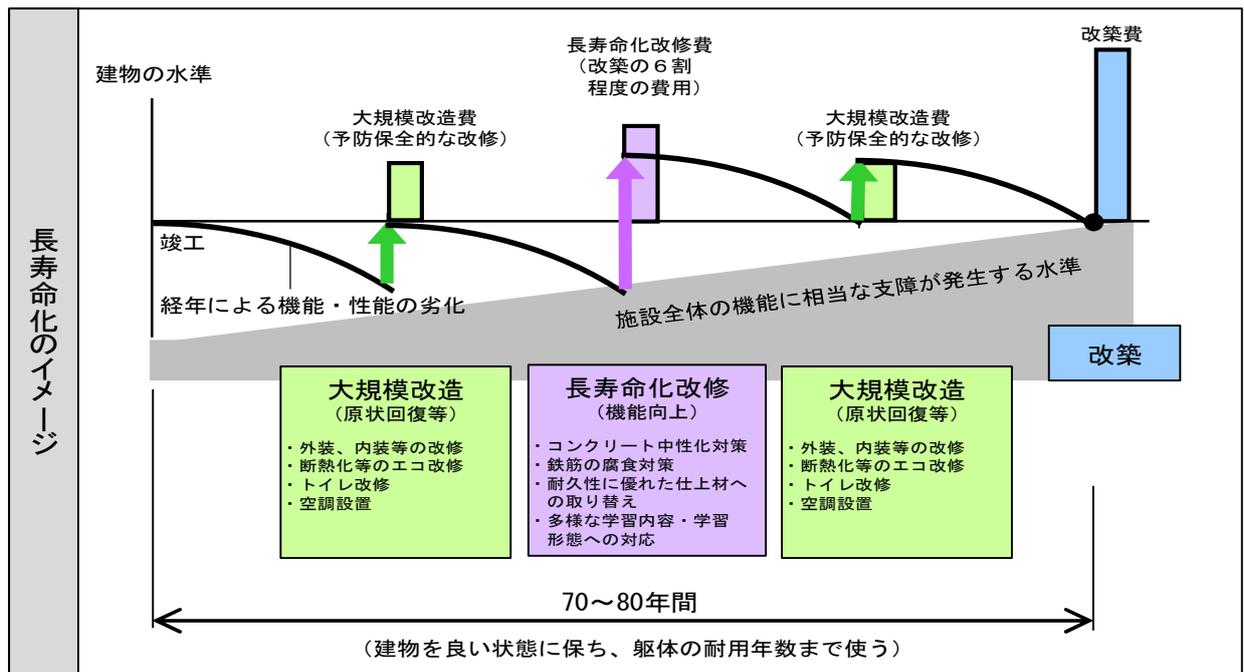
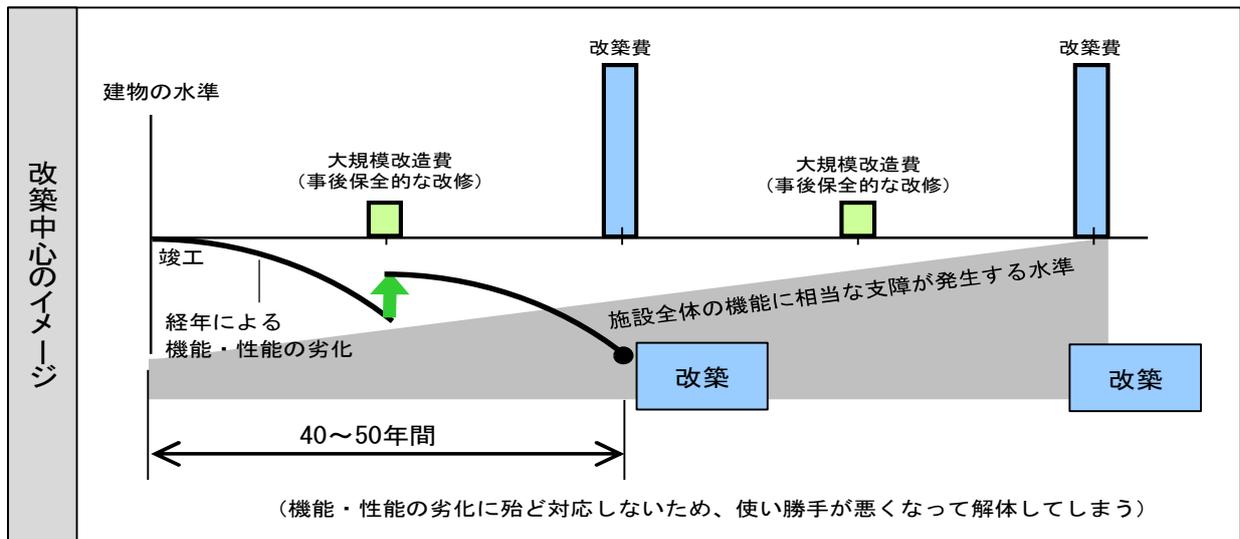
①長寿命化改修

長寿命化改修は、概ね築 80 年で改築する建物を、築 40 年目に機能向上のための改修を実施するものです。一般に原状回復を目的とした修繕、設備機器の交換等に加えて、構造躯体への改修では、コンクリートのひび割れや中性化対策、鉄筋の腐食対策、構造躯体以外では耐久性に優れた仕上げ材への交換、学習環境向上・省エネへの対応では断熱化、教室のLED照明化、木質化など社会的な要請に対応するための改修も対象になります。

②大規模改造

大規模改造は、概ね 20 年周期で劣化状況をもとの機能に回復維持するための修繕として実施するものです。屋上・外壁・開口部・内部・設備機器の交換等の部位の修繕が対象になります。事後保全で劣化した部位別の実施してきた修繕を予防も含めてまとめて計画的に実施していくものです。

改築中心から長寿命化への転換イメージ



「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より

長寿命化改修 (機能向上)

断熱化や教室のLED照明、木質化など機能向上を含めた改修のこと

大規模改造 (原状回復等)

劣化の状況をもとの機能に回復するために行う修繕のこと

(3) 改修等の優先順位

市内の小中学校の校舎・屋内運動場は、調査結果より構造躯体の健全性は全棟確保されており、原則として、構造躯体に影響を及ぼす外部（屋上・外壁）・内部の劣化状況の進行している棟（C評価）を優先して改修を実施していきます。

改修は、原則棟単位で実施しますが、同一学校内の仮設校舎などの無駄を極力避けつつ、改修時期が重ならないよう、全体としての費用の集中を抑制します。

今後、改修等の優先順位を決定する際に必要な留意事項は以下の通りです。

- ①建築年数
- ②構造躯体の健全性
- ③構造躯体以外の劣化状況評価
- ④工事改修履歴
- ⑤児童生徒数の推移
- ⑥国庫補助金等を活用した改修工事の有無
- ⑦課題対応

第6章 老朽化・劣化状況を踏まえた整備計画

第6章 老朽化・劣化状況を踏まえた整備計画

検討委員会による最終答申では、施設の老朽化状況等を踏まえ、短期（10年）計画を以下に示す7年計画と10年以上計画の2案を提案します。

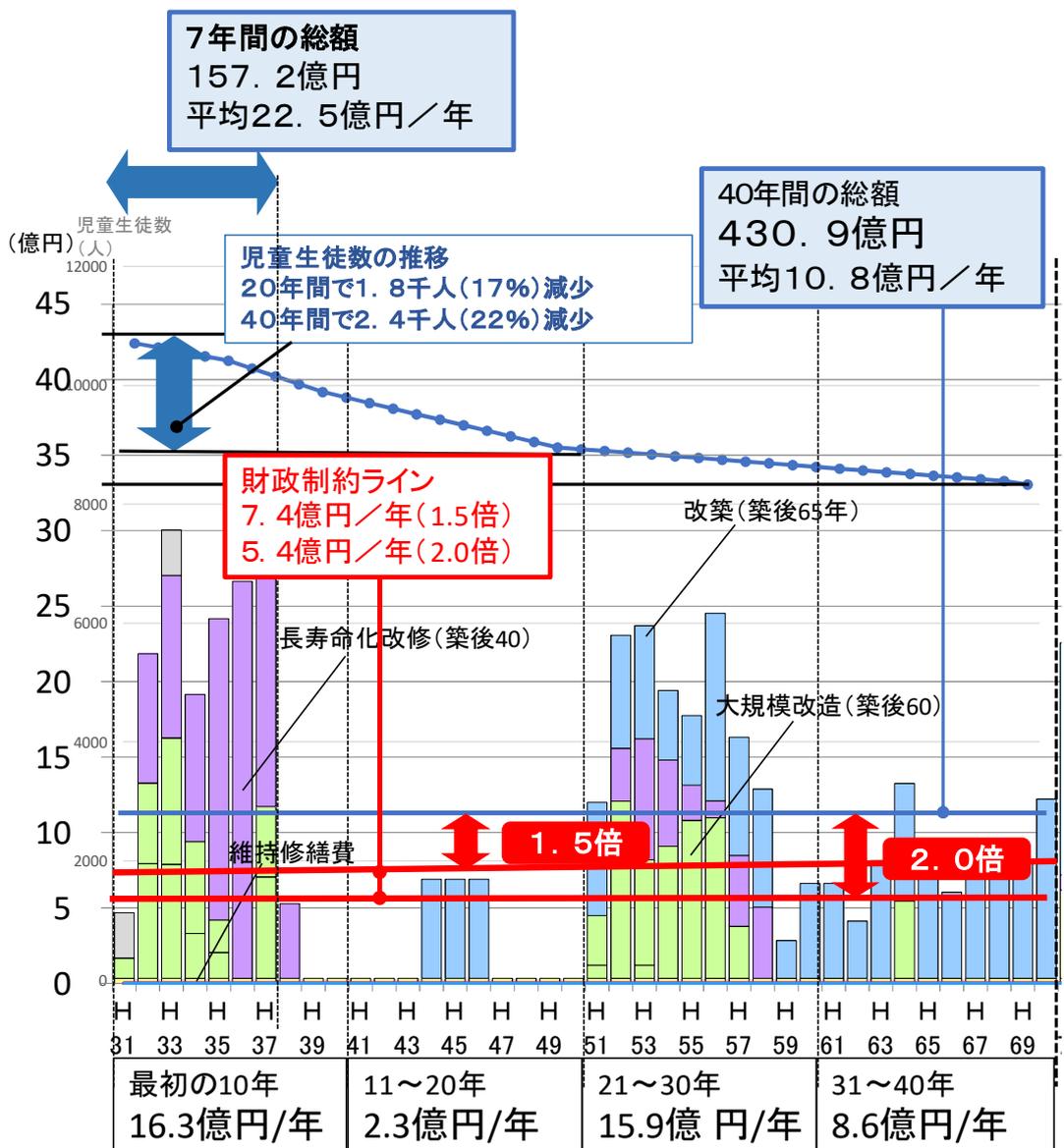
なお、有鹿小学校はリース校舎の解消のため、今泉小学校は児童の増加が見込まれ教室数が不足する可能性があることから、校舎の新築を計画に盛り込んでいます。

また、児童生徒数の変化等が予想される学校の整備等については、中長期計画を検討する中で、方向性を打ち出していきます。

1. 7年計画

老朽化している施設を最も短期間で改修するよう設定した計画です。

7年計画は、7年間で全校舎・体育館（77棟）の最初の改修が一巡する期間に長寿命化改修（機能向上）を中心に実施した場合の計画です。結果では、約431億円（40年間）を要します。7年間で改修を終えることができますが、この7年間は、年間約23億円程度の改修費用が必要となります。



2. 10年以上計画

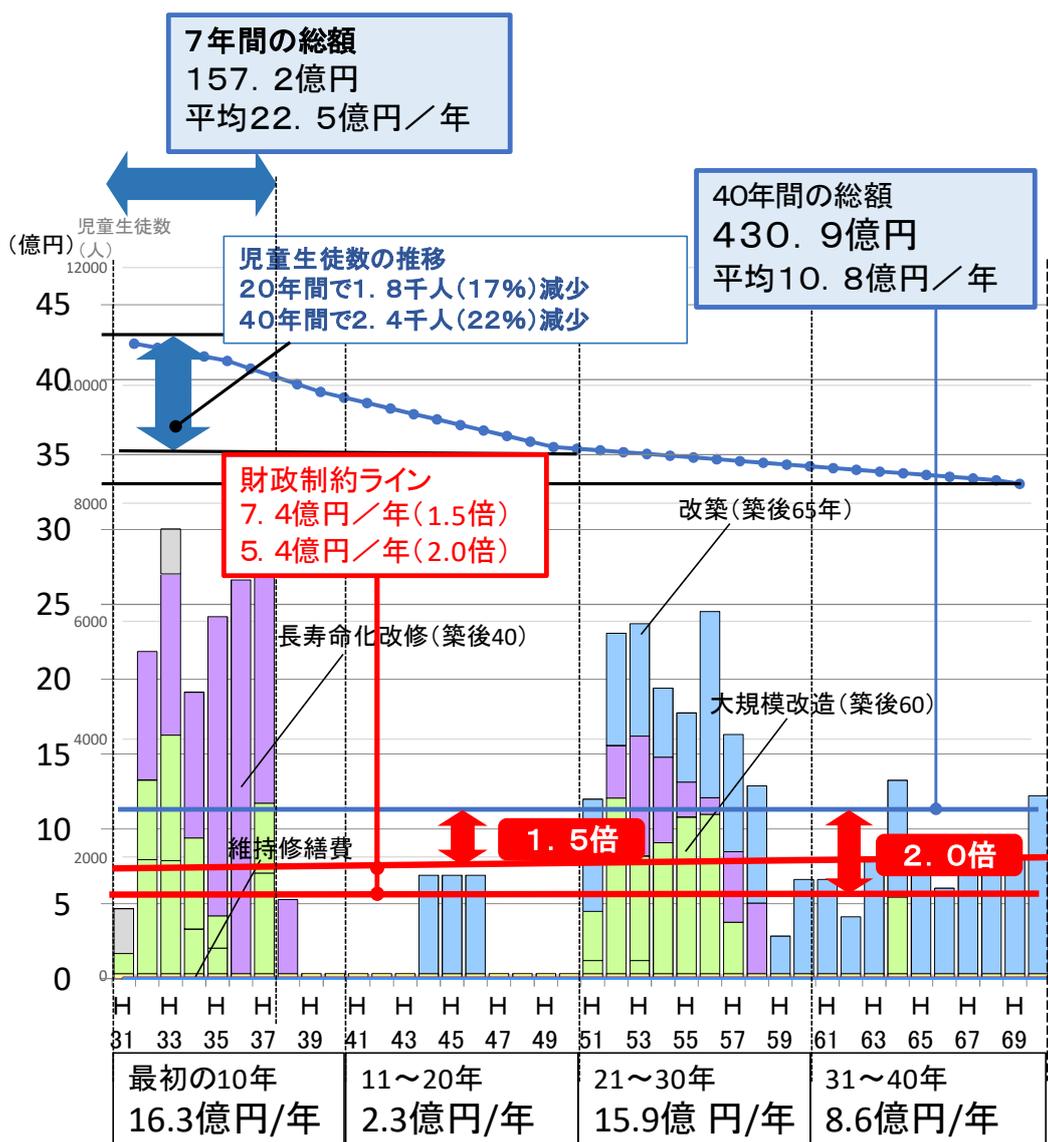
平成29年3月に策定された「海老名市公共施設再編（適正化）計画」で検討されている投資限度額〈約15億円／年〉をもとに、学校分（市内公共施設の施設面積でみた構成割合約50％）の投資限度額〈約7.5億円／年〉で設定した計画です。

建築後45年を超えている棟は65年で改築としました。全校全棟の改修が一巡するまでに17年を要します。

17年間で全校舎・体育館（77棟）の最初の改修が一巡する期間について、改修履歴を考慮して改修済みの部位の改修費を軽減して、長寿命化改修（機能向上）を大規模改造（原状回復）に見直した計画です。結果では、約371億円（40年間）を要します。

これまでの改修履歴を考慮して、改修費を軽減して見直すとともに、費用の平準化を図った計画です。実際には17年の後半で改築対象の棟が出るため、最初の17年間で〈年約8.8億円／年〉、40年間では年約9.3億円／年となります。

⇒ 改修費を比較すると、約60億円（年平均1.5億円／年）のコスト縮減が図られます。（これは「7年計画」の改修費の約14％に相当します。）



1案:7年改修計画

No.	施設名	建物名	築年数	改修					工事内容	重点整備	年度							工事費 (単位:千円)	改築費
				屋上 屋根	外壁	屋上 外壁	外壁 判定	内部 判定			31	32	33	34	35	36	37		
1	柏ヶ谷小学校	屋内運動場	44	H20			C	C	長寿命化		●							69,379	216,810
2	杉本小学校	屋内運動場	35		H5		B	C	長寿命化		●							63,763	199,260
3	有鹿小学校	(仮)新館[新築]							新築	エレベータ設置	●							300,000	300,000
平成31年度小計																	433,142	716,070	
4	柏ヶ谷小学校	南棟	53	H13	S60		C	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								415,339	1,247,400
5	柏ヶ谷小学校	北棟(西側)	50	H13	S59		C	C	大規模改造		●								
6	柏ヶ谷小学校	北棟(東側)	46	H13	S59		C	C	大規模改造										
7	柏ヶ谷小学校	中棟	25				B	B	大規模改造										
8	有鹿小学校	本館東側	50			H20	B	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								402,851	892,350
9	有鹿小学校	本館西側	43			H20	B	B	大規模改造		●→								
10	有鹿小学校	西館	38			H20	B	B	長寿命化										
11	有鹿小学校	東館(プレハブ)	13				B	B	取壊し		●								
12	有馬小学校	屋内運動場	42				C	B	長寿命化		●							81,475	254,610
13	有馬中学校	屋内運動場	38				C	B	長寿命化		●							81,562	254,880
14	有鹿小学校	屋内運動場	36				B	C	長寿命化		●							61,862	193,320
15	海老名小学校	西棟	14				B	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								924,010	1,698,300
16	海老名小学校	東棟	40		S62		C	B	長寿命化		●→								
17	海老名小学校	北棟	39				B	B	長寿命化										
18	海老名小学校	屋内運動場	38			H1	C	B	長寿命化		●							66,787	208,710
19	柏ヶ谷中学校	西棟	39				B	B	長寿命化	バリアフリー化 (①・②・④)								973,756	1,638,360
20	柏ヶ谷中学校	北棟	39				C	B	長寿命化		●→								
21	柏ヶ谷中学校	南棟	26				B	B	大規模改造										
平成32年度小計																	3,007,642	6,387,930	
22	中新田小学校	屋内運動場	40			H21	B	C	長寿命化			●						63,850	199,530
23	海老名中学校	屋内運動場	34				C	C	長寿命化			●						104,630	326,970
24	有馬中学校	A棟・中央	47	H13			B	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								530,050	1,591,920
25	有馬中学校	B棟・東側	39				B	A	大規模改造		●								
26	有馬中学校	C棟・西側	25				C	B	大規模改造										
27	海西中学校	屋内運動場	41				C	C	長寿命化			●						71,107	222,210
28	有馬小学校	中央棟・東棟	45				B	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								359,420	1,079,460
29	有馬小学校	西棟	23				B	B	大規模改造		●								
30	柏ヶ谷中学校	屋内運動場	38			H22	B	B	長寿命化			●						71,366	223,020
31	中新田小学校	西棟	45	H11			B	B	大規模改造	LED照明化 バリアフリー化 (①・②・④)								642,197	1,232,010
32	中新田小学校	東棟中央	40	H11			B	B	長寿命化		●→								
33	中新田小学校	東棟東側	37	H11			B	B	長寿命化										
34	上星小学校	屋内運動場	40			H21	A	C	長寿命化			●						63,850	199,530
35	門沢橋小学校	屋内運動場	39			H22	A	C	長寿命化			●						63,850	199,530
36	社家小学校	屋内運動場	39			H22	A	C	長寿命化			●						60,480	189,000
37	今泉小学校	(仮)新館[増築]							新築	エレベータ設置			●					300,000	300,000
平成33年度小計																	2,330,800	5,763,180	

今後、海老名市でも参考となりそうな先進的な取組事例を掲載します。

コミュニティスクール

地域に開いた安全な学校 地域の人たちのための居場所



安全性を確保するために設けた親しみやすい受付(埼玉県川越市霞ヶ関北小学校)

■期待される効果

子どもたちの安全をより強く確保

- ・先生に加えて地域の人たちも「学校内の大人の目」となり、子どもたちの活動を見守りながら校地内への人の出入りをとらえ、不審者侵入の抑止を図ることができる。

地域と学校とがより近くに

- ・学校で活動する地域の人たちが、同時に子どもたちの様子も目にすることで、学校をより身近に感じ、教育活動への協力につながる。



ボランティア等の活動スペース
(新潟県聖籠町立聖籠中学校)

地域と学校とがより身近に

- ・地域の人たちにとって学校が一層身近な存在となり、学校・家庭・地域が一体となって教育活動に取り組み、子どもたちを見守ることができる。

地域の大人たちとの交流

- ・地域の人たちによる読み聞かせ活動や、逆に子供たちによる歌の発表会等、子どもたちが学校という安全な場所で家族や先生以外の大人と交流を図ることができる。



P T A 活動など地域の人たちも利用できる会議室
(神奈川県横須賀市立大塚台小学校)

居心地の良い活動拠点

- ・活動に必要な面積や機能を確保するとともに、居心地の良い雰囲気になるよう、内装等に配慮し、給湯スペース等を用意する。

「まちづくり」への寄与

- ・歩道に面した敷地の一部をポケットパークや花壇とし、地域の人たちが立ち寄りやすい雰囲気とするとともに、景観の向上を図る。

(出典：「新たな学校施設づくりのアイデア集」文部科学省 平成 22 年 1 月)

おらが学校 みんなの学校

学校をまちづくりの拠点に



家庭科で地域の大人たちが調理（青森県南部町立名川中学校）

■期待される効果

機能の高度化による教育の充実

- ・ 地域の人たちの利用を想定して特別教室の面積や設備を充実することや、本格的な施設と専門職員を備えた社会教育施設を複合し子どもたちも利用することで、学校教育活動の充実を図ることができる。

防災拠点としての学校

- ・ 防災機能を向上させることにより、地震等の災害時における地域の人たちの応急避難場所としての役割を果たすことができる。

地域に必要とされる学校

- ・ 学校の図書館や体育館などの利用、放課後子どもプランの活用等が地域の人たちの暮らしの一部となり、地域の人たちにとっても学校が必要不可欠な存在となる。



地域の人たちも利用する学校の図書館
(山口県下関市立豊北中学校)



放課後における子どもの居場所
(東京都武蔵野市立大野田小学校)

誰にでも使いやすく

分かりやすい

- ・ 高齢者や障害者の利用を念頭に置き、円滑に移動できる平面計画やサインの明確性など、バリアフリーに配慮する。その際、災害時における避難場所としての役割を踏まえて計画する。



休日に地域の子どもたちが利用
(福島県西会津町立西会津中学校)



複合化した図書館を児童が利用
(埼玉県志木市立志木小学校)

活動、交流の場の計画

- ・ 活動内容を踏まえ、地域利用に供する各室は、まとまって配置し、他のエリアと区画できるようにする。

(出典：「新たな学校施設づくりのアイデア集」文部科学省 平成22年1月)



地域の人たちが指導するクラブ活動で体育館を利用(富山市立豊田小学校)

■期待される効果

子どもたちの充実した体育活動

- ・学校の運動施設が、地域の人たちの利用を前提とした本格的なものとなり、子どもたちが授業で使用する際にも、より質の高い体育活動を行うことができる。

スポーツを通じた

地域とのつながり

- ・地域の人たちが学校を訪れる機会が増え、学校と地域の協働体制づくりにも寄与する。

利用者・管理担当者を支える空間の適切な配置

- ・動施設そのものに加え、利用者が運動の前後に使用する更衣室、交流・憩いの場としてのラウンジ、会議室等のスペースや、管理担当者のための事務室、休憩スペース等について、広さや機能を充実させるとともに、相互に関連づけて配置する。



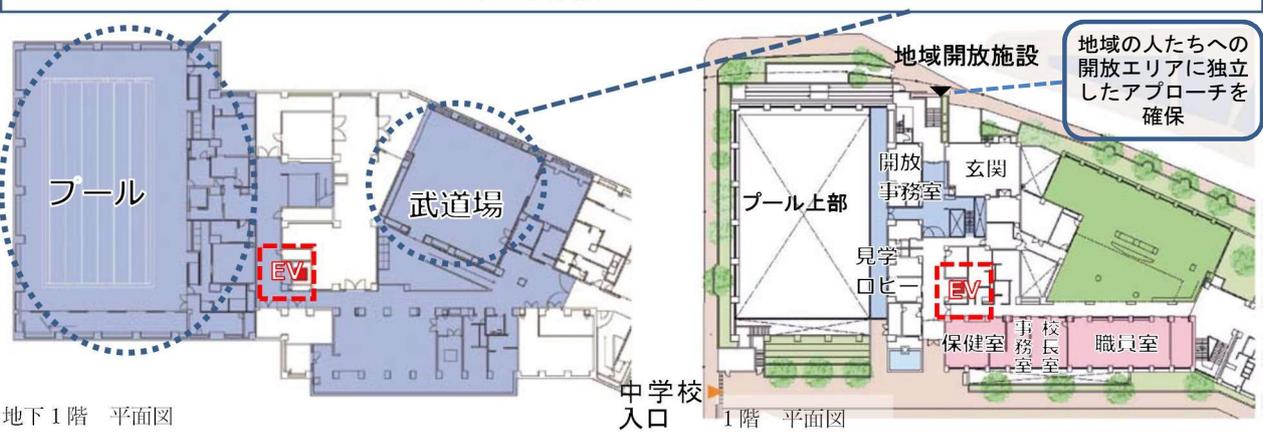
地下1階 温水プール



2階 体育館(プール上)



地下1階 武道場



地下1階 平面図

中学校
入口

1階 平面図

学校の多様な運動施設を地域の人たちに開放(世田谷区立立烏山中学校)

(出典：「新たな学校施設づくりのアイデア集」文部科学省 平成 22 年 1 月)

おらが学校 みんなの学校

学校施設開放の運営と近隣施設の運営の一体的な実施



校舎



体育館(アリーナ)



室内温水プール

■東京都調布市立調和小学校

背景

- ・隣接する小学校2校を統合し、先進的な地域開放型の調和小学校が新設された。
- ・閉校となる小学校跡の有効活用について、地域住民や学校関係者、学校開放運営委員会、健全育成推進地区委員会のメンバーが中心となり検討した中で、学校開放運営委員会を発展的に解消し、設立を進めていた総合型地域スポーツクラブに吸収することとなった。

取組の内容

- ・NPO法人調和SHC倶楽部は「総合型地域スポーツクラブ」に文化活動も加味した「総合型地域スポーツ・文化クラブ」で、市からの委託により調和小学校に隣接する市民大町スポーツ施設（統合校の跡地に開設）を管理運営しており、自主運営の一環として、調和小学校の学校開放事業を担当している。
- ・調和SHC倶楽部会員は、学校の使用時間以外の体育館（アリーナ）、校庭、屋内温水プールなどの優先利用のほか、音楽室等の特別教室も利用可能となっている。

取組の効果

- ・従来の学校開放は地域住民と副校長等からなる「学校開放委員会」が運営を行っているが、学校開放部分をNPO法人が担っているため、健全育成推進地区委員会やPTAにとって関連事務の負担軽減となっている。
- ・倶楽部自体がもともと地域内の学校開放の各サークルを母体としているため、横のつながりもあり、サークル間の交流も活発で、地域コミュニティの醸成に寄与している。
- ・学校施設の利用は、PTA、健全育成が優先され、その空きを調和SHC倶楽部の教室・サークルが利用する形となっており、毎月、学校にスケジュール表を提出して、利用する形となっている。そのため、スムーズな利用が可能となった。
- ・幼児から高齢者まで活動できる生涯学習の場となっており、利用者は開設後15年経過した今年々増加傾向となっている。

(出典：「学校施設長寿命化計画策定に係る解説書」文部科学省 平成29年3月)

新しい学習形態への対応

余裕教室の活用 柔軟な空間



隣接する二つの普通教室を理科教室に

◆埼玉県志木市立志木小学校

- ・二部屋間の壁を撤去し、耐震補強をすることにより、普通教室を特別教室(理科教室)に改修。

特別教室等を学習・メディアセンターに

◆横浜市立港北小学校

- ・元の特別教室の壁を撤去し、学習・メディアセンターに。



◆富山県滑川市立西部小学校

- ・余裕教室の壁を撤去し、開放的な情報学習室に。



◆横浜市立港北小学校

- ・普通教室と廊下との間の壁を撤去し、開放的な学習空間に。
- ・併せて間伐材の利用などにより内装を木質化。



(改修後)廊下との間仕切りを撤去



(改修前)廊下との壁がある普通教室



(改修後)内装を木質化

(出典：「新たな学校施設づくりのアイデア集」文部科学省 平成 22 年 1 月)

インクルーシブ 教育への対応

バリアフリー化

◆屋内運動場と外部の移動の円滑化

バリアフリー化されていない事例



- ・ 出入口に段差があった。
- ・ 階段に手すりがない。

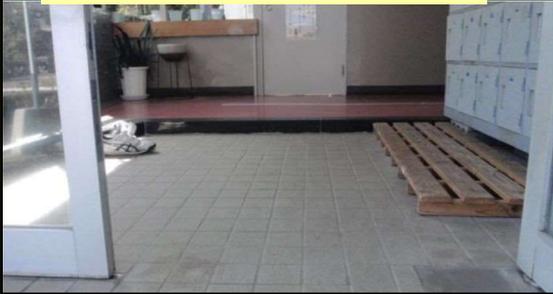
バリアフリー化されている事例



- ・ 出入口の段差をスロープにより解消。
- ・ 階段に手すりを設置。

◆校舎と外部・校舎内の移動の円滑化

バリアフリー化されていない事例



- ・ 昇降口などに段差があった。

バリアフリー化されている事例



- ・ 昇降口の段差を解消した。

車いす使用者も円滑に出入りができる。足腰の弱い高齢者がサポートなしで円滑な出入りができる。

◆敷地内通路の移動の円滑化

バリアフリー化されていない事例



- ・ 建物間通路に段差があった。

バリアフリー化されている事例



- ・ 建物間通路間の段差を解消した。

(出典：「近年の災害から学ぶ避難所となる学校施設について」文部科学省大臣官房文教施設企画部 平成30年3月)

木質化

木材を活用してあたたかみのある室内の環境に



木材によるあたたかみのある空間(福島県棚倉町立社川小学校)

■期待される効果

快適であたたかみのある

室内環境

- ・ 木材を利用することで、あたたかみが感じられる、調湿作用により湿度が良好に保たれるなど、快適な室内環境が実現できる。また、子どもたちの心理面・情緒面の安定につながる。

木材利用による環境負荷低減

木材は、炭素貯蔵効果があり、材料製造時の炭素放出量が少ない省エネ資材である。また、間伐材の利用は森林の保全に寄与することになる。



木の音楽室(三重県熊野市立有馬中学校)



木造の体育館(秋田県能代市立浅内小学校)

地域材の利用により、

環境、地域を考える

- ・ 地域材を利用することで、森林の保全、木の文化の継承、地域の活性化などについて考えるきっかけを増やすことができる。



校舎全景(福井県南越前町立今庄小学校)



校舎内部(福井県南越前町立今庄小学校)

◆福島県北塩原村立さくら小学校



改修前のランチスペース



改修後のランチスペース

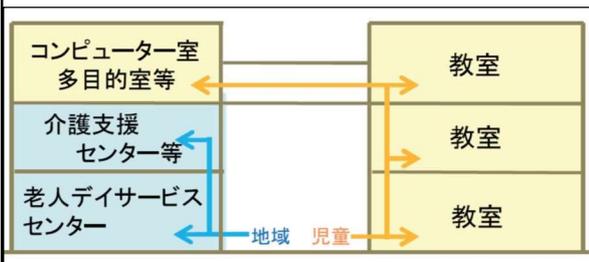
(出典：「新たな学校施設づくりのアイデア集」文部科学省 平成22年1月)

公共施設等との複合化

余裕教室を老人福祉施設へ転用



既存校舎を改修し老人福祉施設に転用



凡例 □ 小学校 → 地域 □ 老人福祉施設

校舎立面図

■ 京都府宇治市立小倉小学校

背景

- ・宇治市では、平成11年度までに、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター棟の整備計画を策定していた。
- ・当時、小倉小学校には、12教室以上の余裕教室があったことから、これを老人デイサービスセンターに転用する計画とした。

施設の配置・動線

- ・校舎は3つの棟があり、一番北側の校舎の1・2階部分を老人福祉施設に、3階を小学校のコンピュータ室、多目的室として改修。
- ・3階には、児童が外部や老人福祉施設を通らずに移動できる連絡通路を設置。
- ・両施設を区分して管理するために、通常時には学校と老人福祉施設をつなぐ階段は使用しておらず、非常時のみの使用としている。
- ・施設内では、動線は分けているが、避難経路の関係から、壁の設置や扉の施錠といった完全な分離はしていない。

複合施設とした効果

- ・当初は社会福祉施設の充実と財政負担の軽減を目的に整備。
- ・新たに用地を購入して、社会福祉施設を整備する場合と比較して、5億円以上経費を削減。
- ・休み時間に、生徒と高齢者が折り紙等で一緒に楽しんだり、生徒の歌や演奏を高齢者に披露するなど、授業の一環としての交流を積極的に実施しているほか、日常的に身近で生活することにより自然発生的な世代交流も生まれている。



3階部分をつなぐ渡り廊下



階段前に扉を設置し施設を分離



畳や障子を設置し、高齢者が落ち着ける空間としている



暖房効果を高めるための工夫

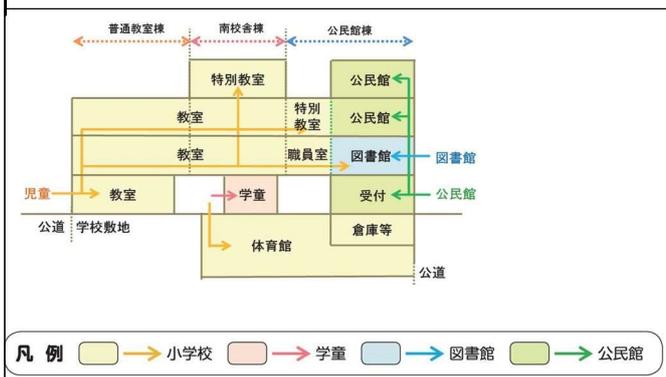
(出典：「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」
学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 平成27年11月)

公共施設等との複合化

地域コミュニティに支えられた学社融合施設



普通教室棟と生涯学習棟をつなぐ2階テラスとブリッジ



校舎立面図



児童による貸出し業務体験できるなど、複合した公共図書館を利用する児童が多い



校内のチャレンジセンターには、専門職員が厳選した図書が並ぶ



小学校のテラスと図書館の入口が近接する2階には警備員が常駐



公民館の入口にある受付で利用者を確認

■埼玉県志木市立志木小学校

背景

- 志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化の問題の解決策として、学社融合施設とする案が浮上。
- 地域に開かれた学校として、児童と地域の人々が直接交流の機会をもつことで、学習の相乗効果が現れることを期待した。

施設の配置・動線

- 学校と図書館・公民館で棟や入口は違うものの、明確な区分はほとんどなく、図書館などは児童と地域が同じ時間に利用している。

相互活用・交流活動

- 小学校は、資料の豊富な公共図書館も活用可能。貸出だけでなく、1日約3クラスが授業でも利用している。
- 音楽室やPCルーム、ホール等は共有で使用している。また、小学校のクラブ活動や課外活動を、公民館の利用団体が支援する。

防犯対策

- 児童と公民館・図書館利用者との動線はあえて明確に分けず、大人の目で児童を守るという方針で運営している。
- 学校の安全主任は、図書館と公民館の担当者と適宜打合せを実施、施設の管理運営委員会において危機管理マニュアルを作成、3施設合同の避難訓練・防犯訓練を実施している。

(出典：「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」
学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 平成27年11月)

施設一体型 小中一貫校

改築により小学校を中学校に隣接させた
施設一体型校舎

■東京都杉並区立杉並和泉学園

背景

- ・ 児童生徒数が昭和50年代のピーク時の半分に減少した状況等を踏まえ、小中学校の適正配置を検討する中で、地域の特性等に応じて、施設一体型の小中一貫教育校の設置を視野に入れることとした。
- ・ 平成21年に「杉並区小中一貫教育基本方針」を策定し、各学校の実態や立地条件等に合わせ、一貫した教育活動を区立小・中学校全校で推進していくこととした。

取組の特徴・ポイント

- ・ 隣接していた旧和泉小学校及び和泉中学校の敷地を活用したことにより、一定規模の校地面積を確保している。
- ・ 中学校校舎については既存建物を改修して使用することにより、改築に比べて整備費用を縮減している。
- ・ 小中独立した昇降口を設け、小中学生の体格差による事故などに配慮している。
- ・ 図書室、コンピュータ室、地域資料室を複合させた、総合学習が可能なラーニングセンターを施設の中心に配置し、小中交流の核として機能させている。



普通教室前のオープンスペース
(集会や掲示等に活用)

取組の効果

- ・ 一体型施設を生かして学年や校種を超えた交流を深めることにより、小学生の中学校への期待が高まり、上級生が下級生の模範になろうとする意識に変容がみられてきている。
- ・ 一体の職員室で合同の会議等を行うことにより、小中学校の教員間の相互理解、協働関係の強化がなされている。
- ・ 中学校校舎を活用し、改築ではなく改修で対応したことにより、近年の通常の中学校改築工事に比べ、平米単価が約半分に抑えられた。

効率的な 改修の実施

工事中の代替地に係る経費の削減 ～富山県砺波市～



改修前



改修中：仮設校舎(ピロティを活用した事例)



改修前



改修中：仮設校舎(ピロティを活用した事例)



改修前



改修中：仮設校舎(ピロティを活用した事例)

背景

- 改修工事を実施する際の仮設校舎建設費は、国庫補助の対象となるが、限られた予算の中、効率的に耐震化を促進するためには、仮設校舎の設置等に係る経費を抑えることが必要である。そのため、やむを得ない場合を除き、工事計画を工夫するなどして仮設校舎が不要となるよう努めている。

取り組み内容

- 砺波市には雨天時や積雪時の屋外運動スペースとして体育館の下にピロティを設けている学校がある。体育館ピロティ部分に外壁と間仕切り壁を設置し、仮設校舎として利用した。
- 庄川中学校では、体育館の内部を間仕切り壁で仕切り、普通教室として利用した。なお、その間の体育の授業は、隣接する社会体育施設を利用して行った。

特に留意した点

- 風が十分通らないことが多いので、夏季の暑さ対策として扇風機を設置した。また、外部に面しない部屋は教室ではなく物置として使用した。
- 体育館を仮設教室として使用する場合は、床を傷めないよう、合板で養生をした。

成果と課題

- 体育館下のピロティを活用した場合は、基礎工事、柱梁などの躯体工事や屋根工事等、体育館を活用した場合は加えて床工事も不要となるため仮設校舎に係る工事費は約20%～50%削減できた。
- 仮設校舎の用地の確保が不要になるほか、工事量の減少に伴い工事期間も短縮できた。
- 課題としては、天井を設置しなかった場合、教室の音が漏れることが気になるとの意見があったほか、夏季の暑さ対策及び寒冷地の寒さ対策について、ケースに応じた対応を行うことが必要である。